

幼児の教育

第五十卷

第五號

日本幼稚園協會



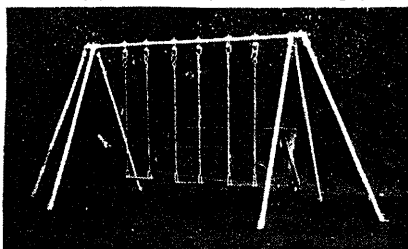
Kazuo

5

NURISNG GOODS

フ レーベル館の 保育遊具

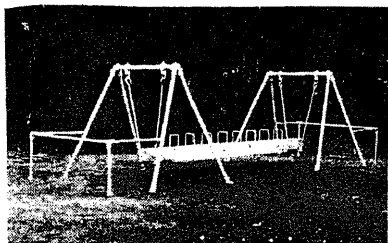
◆鉄製ブランコ(Steel Swings)◆



本機は幼稚園、保育園の児童を対象として特に設計製作されたものであります。吊具は鎖又はマニラロープを使用し、上部シャックル部分に於て取付・取外しが容易になつて居ります。

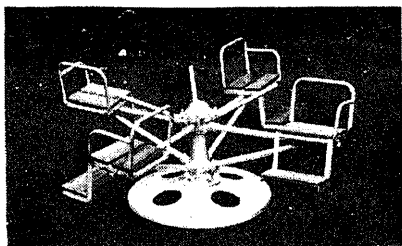
◆遊動木 (Swining Poles)◆

本品は機構簡單堅牢で破損の心配がなく、多人数同時に使用出来廻轉部はローラーベアリング式の採用で従来よりも非常に円滑軽快で安全性高度です。



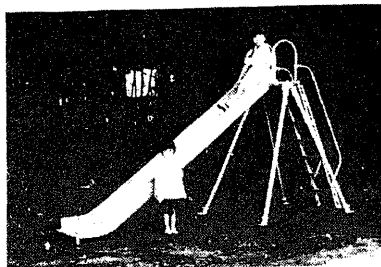
◆メリー・ゴーランド◆

自動的に円滑な廻轉運動するもので、その中央部の装置は自他共に誇り得る設計により製作されました。自由壯快な新保育運動具です。



◆滑 台 (Slide) ◆

高处に登る本能と高处より滑るという円滑な位置の変化に依つて興味を感じるもので、保育にはなくてはならない遊具であります。



フ レーベル館保育用品株式会社

東京都千代田区神保町2-4—(振替東京 38171)

御用命の節は本社直接最寄の代理店に御申付け下さい。

~~~~~目 次~~~~~

|             |                     |        |                 |                     |         |           |
|-------------|---------------------|--------|-----------------|---------------------|---------|-----------|
| 会<br>か<br>ら | 幼稚園の幼児指導要録について(文部省) | 記<br>録 | 幼稚園における指導要録について | カリキュラムはこうしてつくられる(二) | 芽を愛する人  | (表紙……脇田和) |
| .....       | .....               | .....  | .....           | .....               | .....   | .....     |
| (48)        |                     | (38)   | 玉越三朗(32)        | 鈴木信政(4)             | 倉橋惣三(2) |           |



## 芽を愛する人

倉 橋 惣 三

花をめぐる人は多い。果実を求める人は更に多い。芽を愛する人は、数多くない心友である。なぜ心友というか、行樂の友でなく、收穫の友でなく、つゝましやかな訪ずれの道を共にする、

静かな心の友であるからである。その訪ずれてゆくや、高い梢のらんまんでもなく、広い果樹園の豊かなみのりでもなく、小さくかよわく、さを急ぐ旅人には見落されがちな、木の間、草むらの、目立たない、かそけき自然の幼な子である。しかし、ひとたび、近く近づいて、見出したよるこびに見つめれば、何んという、新鮮さと溼潤さの、小さき生命の発動である。心友は相警めその自然を護り、あやまつて、そのやわはだを傷けざらんことをこゝろし、あせつて、その自己展開を強いざらんことを、つゝしみ、きよ

つ。これが芽を受するハンプルな喜びであり、人知れぬ樂しみである。

一つなみに芽とよべども、一つ／＼決して同じくない。いつまでも土にかくれてあらわれないのがあり、地殻を割き土塊をもたげてのし上るのがあり、老樹を蘇らせて、逞しい新樹に独り立ちしてゆくのがあり、親しみと信頼に、よりそい抱きついて伸びてゆくのがあり、芽ほど生長の個性のとり／＼なものはない、やわらかい日光にさわられて、狭い庭におり立つ。この小さくくぎられた地面にも、春はいろ／＼の芽を芽ぐませている。去年の草の中に新芽のまゝに咲く福寿草が黄金色の花の、あまりに早く誇りやかなのは却つて気にかゝるが、緑の堅い小まりのような露のとうが、やがて太い

茎に伸びあんな大きな葉にひろがるのかと思えば頼もしい。

捨て、おいた花壇に列をつくつて顔を出しているチューリップの芽の可愛らしさ、花となつて、菓子のようにこつてりしすぎるよりも、却て、草の子らしい位である。草の子らしいといえは、名もよく分らない雑草の小さな芽が、ほんとうの草の子らしい無邪気さに、群り生え出しているのを見ると、どれもきつと、何んとか名のある筈なのに、たゞくさといふすてるのが、すまんような心がする。

木の芽は更に美しい。枯れているかとも見られるが、だんの細い枝の先きに、マニキュールした小びとの小指の爪のような紅い芽を見るのも、清潔なあでやかさを感じられ、何んというごつたことかと思われる柿の木のはつてりとした芽、さても尖々しいと思われればらの柔和な芽。ほんとうに芽を愛する人は、その一つ一つの美しさに惹きつけられる。

しかも、こうしたさまざまの草の芽、木の芽に感ぜられる共通の点は、そのうつくしさの充実である。又、じつと見つけている間に、そのすばらしい生長の勢に驚嘆させられることである。芽を愛するという言葉よりも、沉んや芽を慈しむという言葉よりも、芽に驚くという言葉こそ当つていることが多い。そうして、どの芽も、思いのまゝに、すく／＼と伸びさせてやりたい心もちで一ぱいになる。

伸びさせてやりたいと思うよりも、伸びる力におつついてゆけない思いさえするのは、芽というには大き過ぎる、裏の竹の子である。地割れのする程の力で土を押し上げて、矢のさ

きでもあるような小さい顔で、地面をつきぬいたと見ると、もう夕方には、ぐん／＼と寸に伸び尺に長じ、じきに小笹になり、若竹になり、初夏の風に、いき／＼とそよぎゆれる。

『富士一つうすみ残して青葉かな』（蕪村）の壯観は、歌にも絵にも、とりはやされる満地の新緑であるが、もうその時は新芽とはよばれまい。同じ新しい緑でも、青葉は集合の名であり、芽は、どこまでも個々の名である。すなわち、個として愛すること芽を愛する心である。総じて真の愛は個を對象とすることであるが、うつかりすると見落し、踏みこじりさえしかねない、小さい芽への愛情は、徹底的個愛でなければならぬ。

芽は皆将来をもち、将来に生きている。しかしながら、誰れも、将来を考へてのみ芽を愛するのではない。その将来のためにのみ芽を護るのでもない。それよりも、将来というものを内に含む、今の小さなそのものを尊重するのである。将来に向つて進む今のけなげな向上そのものに敬意を表するのである。

芽はいつまでも芽ではない。芽は自分が芽であつたことをも忘れるであらう。芽を愛する人も、芽の今を惜しみはするが、いつまでも芽のそばに立つていようとはしない。自らをさえ忘れる芽に、長く覚えられていようとも願わない。芽はやがて芽でなくなるものである。芽を愛する人達も、それをこそ喜びとして、芽の時をあたに過ぎないよう心がける。

# カリキュラムはこうしてつくられる (二)

静岡大学教授 鈴木 信 政



## 二、カリキュラムをつくる手順(つゞき)

### 3、環境調査

現在の社会にはどんな生活機能或は人間活動の領域があるかその研究調査が大切である。この生活領域は即ち子供の学習領域を示すものである。社会学者スペンサーが人間の生活機能を分類して、

- 生命・健康の維持
- 物質の獲得
- 子女の養育
- 公民的活動
- 趣味・娯樂の活動

を挙げている。そして今日ヴァージニア案とかサンタ・バー

バラ郡案などの新カリキュラム運動に大きな貢献をなしている。生活機能を決定する場合には、

- 生活の自然のまゝに項目を列挙してよい。
- 小さな地域社会にとられれず視野を広くする。
- 人間性の調和的発達を念とする最近社会科学偏重の嫌があるが特に注意を要する。

さて環境調査の基礎資料の例を左に掲げてみると、

#### (1) 子供の家庭環境の調査

国児の通園地域

| N.O. | 町 | 名 | 人数 | N.O. | 町 | 名 | 人数 |
|------|---|---|----|------|---|---|----|
| 1    |   |   |    | 3    |   |   |    |
| 2    |   |   |    | 4    |   |   |    |

| 項目        | 人数              | 項目       | 人数 | 項目        | 人数 |
|-----------|-----------------|----------|----|-----------|----|
| 環境概評<br>% | 可(別荘、住宅地)<br>34 | 普通(普通住宅) | 23 | 不可(繁華商店街) | 12 |

保護者の職業

| 職別 | 業類 | 内容 | 人数 |   |
|----|----|----|----|---|
|    |    |    | 実数 | % |
|    |    |    |    |   |

父母の教養……学歴

| 性別<br>学校名 | 父  |   | 母  |   | 計  |   |
|-----------|----|---|----|---|----|---|
|           | 実数 | % | 実数 | % | 実数 | % |
|           |    |   |    |   |    |   |

園児の出生当時の父母の年齢

| 性別 | 年齢 | 59~55 | 54~50 | 49~45 | 44~40 | 39~31 | 34~30 | 29~25 | 24~20 | 計   |
|----|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
|    |    | 父     | 実数    | 0     | 1     | 3     | 6     | 21    | 23    | 14  |
| 父  | %  | 0     | 1     | 4     | 9     | 31    | 35    | 20    | 0     | 100 |
| 母  | 実数 | 0     | 0     | 0     | 2     | 9     | 15    | 26    | 16    | 68  |
| 母  | %  | 0     | 0     | 0     | 6     | 14    | 22    | 36    | 24    | 99  |

兄弟数

| 組別  | 人数 | 人数 |    |    |    |    |   |   |   | 計   |
|-----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|-----|
|     |    | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 6 | 7 | 8 |     |
| 年長組 | 実数 | 2  | 8  | 13 | 11 | 4  | 3 | 1 | 1 | 43  |
|     | %  | 5  | 16 | 30 | 27 | 10 | 7 | 2 | 2 | 99  |
| 年少組 | 実数 | 1  | 9  | 9  | 5  | 1  | 1 | 0 | 0 | 26  |
|     | %  | 4  | 35 | 35 | 19 | 4  | 4 | 0 | 0 | 101 |

父母の實否

| 項目     | 年長組 |       | 年少組 |       | 計  |      |
|--------|-----|-------|-----|-------|----|------|
|        | 実数  | %     | 実数  | %     | 実数 | %    |
| 父母共に健在 | 37  | 88    | 26  | 100.0 | 63 | 91.3 |
| 父のみ    | 1   | 2     | 0   | 0     | 1  | 1.4  |
| 母のみ    | 1   | 2     | 0   | 0     | 1  | 1.4  |
| 養父母    | 2   | 4     | 0   | 0     | 2  | 2.9  |
| 義父母    | 1   | 2     | 0   | 0     | 1  | 1.4  |
| 祖父母    | 1   | 2     | 0   | 0     | 1  | 1.4  |
| 計      | 43  | 100.0 | 26  | 100.0 | 69 | 99.8 |

國児の家庭に於ける同居人（使用人が主）

| 組別  | 人数 |   |
|-----|----|---|
| 年長組 | 1  | 2 |
| 年少組 | 7  | 5 |
| 計   | 8  | 7 |

國児の同胞中の順位

| 組別  | 順位   |      | 長子   | 中位   | 末子  | 独り子 | 計    |
|-----|------|------|------|------|-----|-----|------|
|     | 実数   | %    |      |      |     |     |      |
| 年長組 | 1.2  | 12   | 17   | 39.5 | 4.7 | 2   | 43   |
|     | 27.9 | 27.9 | 10   | 10   | 1   | 1   | 26   |
| 年少組 | 5    | 19.2 | 38.4 | 38.4 | 3.8 | 3.8 | 99.8 |
|     | 19.2 | 38.4 | 22   | 27   | 3   | 3   | 69   |
| 計   | 24.6 | 31.9 | 39.1 | 39.1 | 4.3 | 4.3 | 69.9 |

國児の生育地

| 組別  | 生育地 |   |   |   |   | 計  |
|-----|-----|---|---|---|---|----|
| 年長組 | 39  | 1 | 3 | 3 | 3 | 43 |
| 年少組 | 32  | 1 | 3 | 3 | 3 | 26 |

國児の生れ月

| 組別  | 月   |   |   |   |    |   |   |   |   |    |    |    | 計  |
|-----|-----|---|---|---|----|---|---|---|---|----|----|----|----|
|     | 年長組 | 1 | 2 | 3 | 4  | 5 | 6 | 7 | 8 | 9  | 10 | 11 |    |
| 年少組 | 4   | 0 | 0 | 2 | 5  | 1 | 2 | 3 | 2 | 5  | 5  | 0  | 43 |
| 計   | 5   | 2 | 3 | 6 | 10 | 7 | 9 | 6 | 7 | 10 | 6  | 4  | 69 |



(ロ) 幼稚園環境の調査

幼稚園は「適当な環境を与えて」子供の心身の発達を助長することを目的としているから、園内外の環境実態調査や施設・設備の調査などは、いゝ保育の原動力となる。

幼稚園の位置

県庁所在地の官庁街

附属中学校、附属小学校に隣接、学校地帯の中にあつて環境は比較的閑静

職員数

|   | 主事 | 教諭 | 助教諭 | 用務員 | 計 |
|---|----|----|-----|-----|---|
| 男 | 1  | 0  | 0   | 0   | 1 |
| 女 | 0  | 3  | 1   | 1   | 5 |
| 計 | 1  | 3  | 1   | 1   | 6 |

園児数

|   | 青組(年長) | 黄組(年長) | 赤組(年少) | 計  |
|---|--------|--------|--------|----|
| 男 | 9      | 11     | 11     | 31 |
| 女 | 12     | 11     | 15     | 38 |
| 計 | 21     | 22     | 26     | 69 |

(ハ) 見解調査

前述の事実調査とは違つて、この調査は世論や父兄の意見・希望等にわたるので、相当の経費・労力・時間などを必要とする。

○父兄の幼稚園に対する支持  
新教育について

(調査人員 59名)

| 項目     | 品等                      | 実数 | %  | 項目      | 品等                 | 実数 | %  |
|--------|-------------------------|----|----|---------|--------------------|----|----|
| 言葉遣い   | よくなつた                   | 18 | 31 | 物事について  | よく質問する態になつた        | 42 | 71 |
|        | 変わらない                   | 31 | 53 |         | 興味の範囲が広がつた         | 26 | 44 |
|        | わるくなつた                  | 10 | 17 |         | 理屈を言うようになつた        | 31 | 53 |
| 挨拶     | よくなつた                   | 41 | 69 | 常識的になつた | 9                  | 15 |    |
|        | 変わらない                   | 19 | 32 | 辛棒強くなつた | 20                 | 34 |    |
|        | 悪くなつた                   | 0  | 0  | 普通      | 37                 | 63 |    |
| 行儀     | よくなつた                   | 24 | 41 | 持続性     | 倦つぱくなつた            | 2  | 3  |
|        | 変わらない                   | 31 | 53 |         | 羞ずかしがらない           | 18 | 31 |
|        | 悪くなつた                   | 5  | 8  |         | 仲よく遊べる             | 22 | 37 |
| 物の扱い   | よくなつた                   | 38 | 64 | 社会性     | 大勢の友達と遊べる          | 32 | 54 |
|        | 変わらない                   | 19 | 32 |         | 図々しくなつた            | 0  | 0  |
|        | 悪くなつた                   | 2  | 3  |         | 前より半費がかかる          | 7  | 12 |
| 遊びについて | 乱暴になつた                  | 6  | 10 | 経費      | 変わらない              | 33 | 55 |
|        | 倦き易くなつた                 | 1  | 2  |         | あまりかからない           | 7  | 12 |
|        | いろいろのことをして<br>あそぶようになつた | 53 | 90 |         | 幼稚園に対する関心が<br>高まつた | 39 | 66 |
| 発表表    | よくなつた                   | 47 | 80 | PTAが出来て | 変わらない              | 11 | 18 |
|        | 変わらない                   | 10 | 17 |         | 不満である              | 0  | 0  |
|        | 悪くなつた                   | 1  | 2  |         | 賛成                 | 39 | 66 |
| 性格     | 明朗になつた                  | 29 | 50 | 新教育に就て  | わからない              | 14 | 24 |
|        | 怒りつぱくなつた                | 2  | 3  |         | 不賛成                | 2  | 3  |
|        | 我が強くなつた                 | 25 | 42 |         |                    |    |    |

子供に對する希望

| 種別  | 項目       | 実数 | 種別  | 項目      | 実数 | 種別 | 項目       | 実数 |
|-----|----------|----|-----|---------|----|----|----------|----|
| 性質  | 子供らしい純真さ | 2  | 社会性 | 自立的な子に  | 2  | 道徳 | 善惡の判断    | 1  |
| "   | のびのびした子  | 4  | "   | 協同的な子に  | 2  | 情緒 | 辛癖すよい子   | 4  |
| "   | 素直な子     | 6  | "   | 責任感のある子 | 1  | 其他 | 身心の健全な子  | 3  |
| "   | 明るい子     | 7  | 健康  | 健康な子    | 10 | "  | 祖創性      | 1  |
| 社会性 | 社会性の富んだ子 | 6  | "   | 活潑な子    | 5  | "  | 音楽をのびしたい | 2  |
|     | 積極的な子に   | 3  | 道徳  | 正直な子    | 2  | "  | 無記名      | 15 |

願たい習慣、改めたい習慣

| 願       |    |             | 改  |            |    | 願  |    |    |
|---------|----|-------------|----|------------|----|----|----|----|
| 項目      | 実数 | 項目          | 実数 | 項目         | 実数 | 項目 | 実数 | 項目 |
| 自主自律    | 14 | 衛生的習慣       | 3  | はをみがく      |    |    |    |    |
| 後仕末     | 10 | 集団生活に馴染ませる  | 3  | きまり正しい生活   |    |    |    |    |
| 言葉ずかい   | 5  | 動作を敬選に      | 3  | 探究心        |    |    |    |    |
| 挨拶      | 5  | 早起          | 3  | 言いつけを守る    |    |    |    |    |
| 礼儀      | 4  | 洗明          | 3  | 忍耐力        |    |    |    |    |
| 積極性     | 4  | 明朗          | 2  | すききらい      |    |    |    |    |
| 項目      | 実数 | 項目          | 実数 | 項目         | 実数 | 項目 | 実数 | 項目 |
| 後片附     | 6  | 甘え占める       | 2  | 言いつけをまもらない |    |    |    |    |
| 言葉      | 6  | 粗指をかむ       | 2  | 返事をしない     |    |    |    |    |
| 我偏      | 5  | 口唇をなめる      | 1  | 注意力が少ない    |    |    |    |    |
| 泣       | 3  | おしやべり       | 1  | 食事の作法      |    |    |    |    |
| はにかみ    | 3  | おしやべり       | 1  | 人の顔色をみる    |    |    |    |    |
| 買       | 3  | おしやべり       | 1  | せつかちにする    |    |    |    |    |
| 自信がない   | 2  | ちす          | 1  | ものをそまづにする  |    |    |    |    |
| 積極性がない  | 2  | ちす          | 1  | 早ね早起きが出来ない |    |    |    |    |
| お小遣をねだる | 2  | 大勢の友達と仲よくない | 1  |            |    |    |    |    |

以上で社会の要求と子供の要求との二つの面からの大凡の調査——実態調査・見解調査等——は一応終り、夫々その基礎資料を得たので、次に此等の基礎資料に基いて子供に好ましい問題を作る段取りとなるのである。調査の場合に必要な参考書は最近店頭に数多く出ていて、却つてその選択に迷うことが多い。就中、山下俊郎著「幼児心理学」、後藤岩男著「児童理解の方法」などは活用するところ多いと思う。

身体充実度調査について一言して置きたい。身体の發育や栄養の良否は医師の診断によつて知るのが普通とされてゐるが、ブルナー氏新栄養学説 Neue Ernährungslehre von Pringuet に従つて、 $3 \times 10 \times \text{体重}$  式によるペリキーム Peil-disi によつて観察すれば、一醫師の手を俟たなくても子供の發育や栄養の状況をはつきりした数で知ることができる。「子供の研究講座」の中で、竹内憲兵氏が「子供の体の衛生」について述べこの充実度のことを説明し、日本の幼児のペリヂイジは九三——九五、児童のそれは九四・五——一〇〇なくてはならないと言つてゐる。この身体充実度の低い子供を専門小児科医の診断にかけてみると、異常な者は殆ど無く、呼吸器疾患・心臓疾患・先天性疾患・弱体質・筋無力症・蛔虫保持等の患者であることが多い。体重は健康のベロメーターとも謂われるもの、その体重と坐高を用いて測定できるので、割合に手軽く利用され得ると考へる。その解説や数表のことに就ては他の機会に譲り、今回は頁数の都合で省略させて頂き度い。

#### 4. カリキュラムの構成

先づ社会機能を縦軸にとり、子供の発達系列を横軸にとつて組合せる。機械的に陥り生活現実から離れないようにするために、実態調査で得た資料と照し合せて問題單元を選定する。問題單元を選定するときの一般的標準として次のことが考えられる。

- 子供の実際生活の中に在つて、子供の関心と探求意欲を十分そそるような個人的なそして社会的な問題たること
  - 子供の大部分に共通のであつて、共同学習や共同研究に向くもの。
  - 広い関係や錯綜をもち種々の見解を含んで、多様な活動を要するもの。
  - 知識・技能・鑑賞・態度・行動等の学習目的をなるべく多様にしかも有機的統一に於て達成できるもの。
  - 特殊の基礎訓練や技能練習を含まないもの。
- さて問題單元を作成する前提として、

- ① 経験内容の選定
  - ② 経験内容の範囲と配列
- について、考へなければならぬ。

#### ① 経験内容の選定

選定の手掛りとしては社会の要求・幼児の発達・園児の実態の三つの面から見る。

| 社会の要求                       | 幼児の発達                                                                                                                                                            | 経験内容                                                           |
|-----------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|
| <p>個人的能力</p> <p>学習意欲をもつ</p> | <p>家庭内にとどまらず、もつと広い社会的経験を始める用意が出来る。二十分程度指導を受けて集団で遊ぶことが出来る。</p>                                                                                                    | <p>見(学)自然観察(学)経験を拡める遊び・ごっこを中心とする自然学習を行う。</p>                   |
| <p>明確に話す</p>                | <p>話し言葉の一応の完成がなされ、発音の誤り、片言言い廻しの誤りも直される。接續詞、てにをは、従属文も現われ、羅列文は少くなる。非社会的言語から移行して、人に分る話が出るが、未だ理に合わない無邪気な話である。語彙が豊富になる。</p>                                           | <p>話し合い(ことば遊び)を通して正しい話(ごっこ遊び)しことばを自然に作つて行く。豊富な経験を与えて語彙を増す。</p> |
| <p>能率的に読む</p>               | <p>眼と筋肉の協応動作が確立していないので、読む操作が困難である。この時期程、人に読んで貰い度がる時期はなく、読んでふりをしてそらんじていることがよくみかけられる。六才以後によめるようになる。</p>                                                            | <p>自分の名前が読めるように指導する。絵本をよんできかせる。</p>                            |
| <p>効果的に書く</p>               | <p>共応動作が発達していないので、五才児は書くことは困難であるが、字や数字をうつすことが好きで、製作物にも字をサインしたが、六才児は書くことが好きで、郵便葉書、名前、日附等書くが、小筋肉の発達はまだ出来ていないので、速く、多くの字を書くことは出来ない。</p>                              | <p>五才の終りには自分の名前が書けるように指導する。</p>                                |
| <p>数えたり計算したりする</p>          | <p>大き、形、平面と立体の区別は出来る。方向や位置には無頓着で関係判断が出来ていない。昨日、今日の区別は出来る。現在より離れたものの計量は出来ないが、身近な量の検測は出来る。寝る時間、お八つの時間は覚えられ、週時間の正しい概念は未だ九才後でなければ出来ない。数を数えることが好きで、十以下の数概念は可能である。</p> | <p>数概念(十以下)を確立する。数量の経験を与える。</p>                                |
| <p>聴き方、視方に熟達する</p>          | <p>音楽・絵・運動についての批判が可能になる。話をきくのを好み、相手のいうことをきくことが出来る。</p>                                                                                                           | <p>音楽・絵画製作、リズム等の鑑賞をする機会を与える。お話をきかせる。</p>                       |

|                                  |                                                                                                                                                                         |                                                                                            |
|----------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>健康及び疾病に関する基礎的事実を理解する。</p>     | <p>疲れても自覚しない。<br/>病気の時にだけ健康に関心をもつ。独りの時は危険に注意するが、保護者が附いていると油断する。</p>                                                                                                     | <p>健康検査を行う。<br/>休息が必要である。<br/>危険に近寄らないように指導する。</p>                                         |
| <p>健康の習慣をみにつけている</p>             | <p>六才までに基本的習慣の確立が可能である。<br/>(食事、着衣、排泄、独りで寝る、手洗い、口ゆすぎ、洗顔、髪、歯みがき等)<br/>臼歯が五才で生え始める。背骨の発達は五才で成人に近づく。</p>                                                                   | <p>基本的習慣の確立を期す。<br/>歯みがきを始める。<br/>姿勢の指導を行う。</p>                                            |
| <p>公衆の健康の増進をはかる</p>              | <p>教えれば人前で咳をしないこと。他人のハンカチ、コップを使い分けること。交通道徳を守ること等が可能である。</p>                                                                                                             | <p>咳の仕方等、公衆衛生の指導をする。交通道徳を守らせる。</p>                                                         |
| <p>娯楽に参加する</p>                   | <p>大筋肉の発達めざましく統制が可能になる。従って、全身運動を含むあらゆる活動をしたがる。<br/>簡単なルールで集団遊びが出来る。</p>                                                                                                 | <p>豊富な戸外運動が出来るように設備と時間を与える。<br/>集団遊びの機会を与える。</p>                                           |
| <p>知的興味をもち、餘暇を利用するために精神的糧をもつ</p> | <p>時間的に現在、空間的に直接関係のあるすべての物に興味をもつ。過去の文化遺産には関心はない。<br/>簡単な科学的説明に興味をもち、偽りと真実の区別を知りはじめる。考えは具体的で、空想も入るが抽象的なことは考えない。</p>                                                      | <p>豊富な経験と環境を与えられ、自己の興味に基づいて一定の目的をもつた仕事(遊び)に打ち込み、全思考力を発揮して、やりとげる機会を与える。<br/>絵本に興味をもたせる。</p> |
| <p>美的興味をもち、美を鑑賞したのしむ</p>         | <p>精力的、好奇的で芸術経験は直接感覚機関による。芸術的興味は考えの表現よりも活動と素材にある。抽象作用が働き、同じ色同じ形を集めることが出来る。絵は目的を持って描くことが出来る。絵のまとまりの感受力の発達はめざましい。音楽の感受性は敏感で、物語りと音楽の連絡を好む、遊戯に現わすことも出来る。お話をきいて劇化するのを喜ぶ。</p> | <p>お話、音楽リズム、絵、劇、製作、面、作、に表現する機会と材料を与える。</p>                                                 |

| 社会の要求                                  | 幼児の発達                                                                                                                   | 経験内容                                                  |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| <p>社会参加の能力<br/>① 対人関係</p>              |                                                                                                                         |                                                       |
| <p>人間性を尊重する</p>                        | <p>他人の権利を幾分認めるが、未だ他人に機会を与えようとせず、自己中心的で独占しがちである。</p>                                                                     | <p>先着権、お当番の特権等を尊重させる。</p>                             |
| <p>真摯な友情をもつ</p>                        | <p>他の子供と遊び度強い要求をもつていて、人を喜ばせたいと云う気持が強い。小さい子供への愛情が出てくる。頼れば喜んで物をわけたり、世話をしたりする。</p>                                         | <p>友達と仲良く遊び助け合う機会を与える。年少組を可愛がり、小さい人の世話をする経験をもたせる。</p> |
| <p>他人と協力して遊び、且つ働くことが出来る</p>            | <p>五才児はひつたりたり、けつたりしないで仲良く遊べる。自分の行為と周囲の物や人との関係を理解し始める。集団活動には指導者の人物指導力によるのでなく、ただ好き嫌いで参加する、集団の作成は人種・経済的地位等にとられないで行われる。</p> | <p>集団あそび、共同製作、ごっこ遊び、グループ活動の機会を与える。</p>                |
| <p>礼儀に適った好ましい行動をとる</p>                 | <p>五才児は他人から注意を向けられ度いという要求をもつ。大きな集団からの愛情や尊敬を得ようという要求はないが、母親や周囲の人の善いと認めることをやり度がる。</p>                                     | <p>いろいろな挨拶、応待を身につけさせ、お客様を招く経験、学に行く経験等をさせる。</p>        |
| <p>家庭を一つの社会的施設と見做している</p>              | <p>両親を絶対的なものとみている。養育者であれば血のつながりは問題ではない。</p>                                                                             | <p>家庭へ感謝の気持をもつような経験をさせる。</p>                          |
| <p>家庭の理想を保持する</p>                      | <p>家庭の影響力の大きい時期である。</p>                                                                                                 |                                                       |
| <p>家政に熟達している</p>                       | <p>家族のあらゆる活動に参加しようとする。他人を助けたり、餘計な世話までして役立つものになろうとしている。お手伝い(留單なお使い、家政)が出来る。</p>                                          | <p>自立生活に導く。<br/>お手伝いをさせる。</p>                         |
| <p>民主的な家族関係を保持する<br/>社会正義に富んだ市民となる</p> | <p>家庭内の家族の関係が幼児の性質に影響する。<br/>まだ結果論的判断しか出来ない。大人の判断が幼児の道徳的判断の基準となる。正しいことと人が認めることをすることが好きである。</p>                          | <p>一貫した命令が行われるようにし、不公平なことが行われなようにする。</p>              |

|                                |                                                              |                                   |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| <p>不満足な状態を矯正するために社会的な活動をする</p> |                                                              | <p>喧嘩や困ったことについて話し合いの機会をもたせる。</p>  |
| <p>批判的判断力を持ち、宣伝を防禦する</p>       |                                                              | <p>話し合いの機会をもたせる。</p>              |
| <p>真面目な意見の差異を尊重する</p>          |                                                              | <p>公園の使用法を指導し、緑の週間等の行事に参加させる。</p> |
| <p>国家資源を尊重する</p>               |                                                              |                                   |
| <p>一般福祉への寄与をもつて科学的進歩の尺度とする</p> |                                                              |                                   |
| <p>国際社会の協力者となる</p>             |                                                              |                                   |
| <p>法律を尊重する</p>                 | <p>規則を漠然と理解し、義務観念から命令をきくことが出来るが、お互いの協定した規則の出来るのは七・八歳である。</p> | <p>おやくそくを守る習慣をつけさせる。</p>          |
| <p>経済的な理解をもっている</p>            |                                                              |                                   |
| <p>自己の公民的義務をうけ入れる</p>          | <p>自分の責任を果すことに満足を感じ、大人の模倣をしたがる。</p>                          | <p>お当番制を採用する。</p>                 |
| <p>民主的な理想に基いて行動する</p>          |                                                              |                                   |
| <p>② 経済的能力</p>                 | <p>責任をもたせて、おかたづけ等の仕事をさせることが可能になつてくる。</p>                     | <p>おかたづけ、飼育栽培、お手伝いの経験をさせる。</p>    |
| <p>勤労を尊ぶ</p>                   |                                                              |                                   |



|                        |                             |                              |
|------------------------|-----------------------------|------------------------------|
| さまざまな職業を理解する           | 周囲の社会生活の模倣をして、遊び度の要求をもっている。 | 身近な職業の模倣をして遊ぶ。               |
| 自己の職業を巧みに選択する          | 各々個性をもっている。                 | 興味や能力に応じて自ら選択して自由に遊ぶ経験をもたせる。 |
| 選択した職業に成功する            |                             | 一つの仕事をやり遂げるようにさせる。           |
| 自己の仕事の能率を維持し改善する       |                             | 分業で仕事を行わせる。                  |
| 自己の仕事の社会的価値を評価する       |                             | 幼稚園のために協力的な仕事をする機会を与える。      |
| 自己の生活の経済化を計る           | 自他の持物の区別が出来る。               | 持物を大切に取扱うように指導する。            |
| 自己の支出の標準を立てる           | お金の価値が分るようになる。              | 無駄使いをしないように指導する。             |
| 買物の仕方的心得、巧みに行う         | 簡単な買物のお使いが出来るようになる。         | 買物ごっこ、簡単な買物の経験をさせる。          |
| 自己の利益を擁護するために適当な対策を立てる |                             |                              |

## ② 経験内容の範囲と配別

### (一) 範囲

社会の要求と子供の発達とを照合した表と、実態調査とを総合してみると次のような結果がわかる。

◎ この時期の子供は家庭内の生活だけでは満足せず、友達との生活・社会生活の模倣による学習を始める用意ができてくる。

◎ 子供の生活の場合は主として家庭であり、家庭に凡てを依存して居て独立した社会生活を理解し営む能力はない。子供の社会は家庭と直接交渉のある近隣の社会の場に限定される。  
 従つて経験内容は子供の家庭生活・友達との遊び仲間・近隣の生活の範囲から、その経験を通して個人的能力・社会参加の能力が効果的に養われるものを選ぶのが望ましい。

| 生活の場合                                     |                                                                         | 社会生活                                       |                                               |
|-------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 社会生活                                      | 遊戯集團<br>幼稚園<br>近隣                                                       | 家庭生活                                       | 生活会                                           |
| ① 家庭に於ける衣生活                               | ① 生命の保護                                                                 | ① 家庭に於ける衣生活                                | ① 社会生活                                        |
| ② 家庭に於ける食生活                               | ② 自然及社会資源の保護利用                                                          | ② 家庭に於ける食生活                                | ② 社会生活                                        |
| ③ 家庭に於ける住生活                               |                                                                         | ③ 家庭に於ける住生活                                | ③ 社会生活                                        |
| ④ 家庭に於ける交際                                |                                                                         | ④ 家庭に於ける交際                                 | ④ 社会生活                                        |
| ⑤ 家庭に於ける団衆                                |                                                                         | ⑤ 家庭に於ける団衆                                 | ⑤ 社会生活                                        |
| ⑥ 洗濯の自立<br>お人形の洋服作りの経験                    | ◎健康習慣の確立<br>◎交通安全をまもる経験<br>◎危険に対して注意する経験<br>◎病気を予防する経験                  | ◎食事の際の自立、食習慣の確立<br>◎ままごとの経験<br>◎お菓子作りの経験   | ◎洗濯の自立<br>◎お人形さんごっこ<br>◎着替あそび<br>◎お人形の洋服作りの経験 |
| ◎おかたづけの習慣の確立<br>◎おうちごつこの経験<br>◎お人形の家作りの経験 | ◎花や木を大切にする経験<br>◎身辺の動物物の理解を助ける経験<br>◎身辺の諸設備を上手に使う経験<br>◎近隣の社会施設を上手に使う経験 | ◎挨拶 ◎礼儀作法<br>◎お客様ごつこの経験<br>◎お誕生日等にお友達を招く経験 | ◎お掃除の手伝い                                      |
| ◎家庭外であつたことを話す経験<br>◎小さい者の面倒をみる経験          |                                                                         |                                            |                                               |

|                     |                                                                                                                                                                             |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>③ 物の生産・分配・消費</p> | <p>○花壇の手入れ ○動物飼育<br/> ○玩具其の他の生産の経験<br/> ○身近かな職業の模倣遊びの経験<br/> ○身近かな職業の理解とそれに対する感謝<br/> ○保育材料其の他の分配の経験<br/> ○物を上手に使う経験<br/> ○買物の経験<br/> ○物の売買の模倣遊びの経験</p>                     |
| <p>④ 交通・通信・運輸</p>   | <p>○乗物を利用する経験<br/> ○乗物あそびの経験<br/> ○乗物を理解する経験<br/> ○おたよりを出す経験<br/> ○郵便の模倣遊びの経験<br/> ○電話を利用する経験</p>                                                                           |
| <p>⑤ 厚生・慰安・美的表現</p> | <p>○好きなものを選んで遊ぶ経験<br/> ○お友達と団体遊びをする経験<br/> ○いろいろな楽しい行事をたのしむ経験<br/> ○食後などの餘暇をたのしく過ごす経験<br/> ○庭やお部屋を掃除する経験<br/> ○お部屋を花や絵等で飾る経験<br/> ○設備を汚さないで使う経験<br/> ○身体や身のまわりをきれいにする経験</p> |
| <p>⑥ 政治・交際</p>      | <p>○友達と仲良く遊ぶ経験<br/> ○年少組を可愛がる経験<br/> ○グループ活動の経験<br/> ○お当番制の経験<br/> ○生活のきまりをまもる経験<br/> ○おやくそくをまもる経験</p>                                                                      |
|                     | <p>○話し合いをする経験 ○計画を立てる経験<br/> ○役割をきめる経験 ○合衆の経験<br/> ○挨拶を覚える ○お母様や年少組を招待する経験<br/> ○贈物を上げたりお見舞をする経験</p>                                                                        |

(二) 配列

- ◎ 経験内容は子供の心理的發展を顧慮し、能力に応ずるように配列する。
- ◎ 経験内容は子供の経験領域を顧慮し、興味に基づいて配列する

|           |                   |                        |
|-----------|-------------------|------------------------|
| 家庭 生活     | 家庭生活の単純な模倣        | —— 家庭の諸活動への参加          |
| 生命の保護     | 基本的個人的健康習慣の確立     | —— 公衆的な健康・習慣・豫防への関心    |
| 自然資源の保護利用 | 身辺の動植物の観察         | —— 動植物の飼育・栽培への参加       |
| 社会資源の保護利用 | 近隣の社会施設の単なる利用     | —— 近隣の社会施設の単純な模倣       |
| 物の生産・分配消費 | 物の使用・大工等の簡単な職業の模倣 | —— 物の生産・売買の模倣・買物の経験    |
| 交通・通信・運輸  | 乗物の単なる利用          | —— 交通・通信機關の利用経験の再現     |
| 美的表現      | 自己の領分の美化          | —— 保育室等共用の場の美化         |
| 厚生 慰安     | 家庭行事の受動的な享楽       | —— 行事への参加、社会行事の理解      |
| 政治        | 仲良く遊ぶ経験           | —— グループ活動・お当番制・話し合いの経験 |
| 交際        | 楽しい時をもつ経験         | —— 人をたのしませる経験          |

◇ 単元の選擇と配列

そこでいよ／＼単元の問題に入る。

前述の経験内容の中から、園児の実態調査資料に照し合せながら好ましいものを選ぶ。例えば靜大附屬幼稚園の場合には、以上の他に比較的恵まれた施設と設備をもち、一組の園児数は約二〇名であり、研究機關・教員養

成機関として幼稚園であり、父兄の絶對的支持を得ている等の特殊性をとり入れて独自の単元を選び、その取扱方・指導法に工夫を凝らしている。

### 単元の種類

|             |                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 主<br>単<br>元 | ① 社会活動をみることを中心としたもの<br>② 社会活動の模倣を中心としたもの<br>③ 社会生活への協力奉仕を中心としたもの<br>④ 自然現象を中心としたもの<br>⑤ 遊びのクリエイションを中心としたもの<br>⑥ 生活問題を中心としたもの | 農学校見学・水族館見学・暮の町見学。<br>兎の飼育・動物園ごっこ・時計屋さんごっこ・水旅館ごっこ・お舟ごっこ・展覧会<br>お家調べ・お店屋さんごっこ・運動会・汽車ごっこ・交通巡查あそび・クリスマス<br>音楽会・郵便ごっこ・電話ごっこ・劇あそび・歓迎会・卒業式。<br>卒業製作。<br>花摘み・つばめ・おたまじやくしやくい・雨ふり・かたつむり探し・海水浴・シヤ<br>ボン玉遊び・虫とり・芋掘り・木の葉拾い。<br>こどもの日・七夕まつり・お月見・お正月・まめまき・ひなまつり・ギニョールの<br>会・遠足(鷺嶽山・清水山・安倍川・狐ヶ崎遊園地・草薙運動場)。<br>幼稚園生活・お辨当・梅雨・夏休み・高さ比べ・冬休み・寒さに負けない。 |
| 副<br>単<br>元 |                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

因みに近頃では小単元主義から大単元主義に移つた傾向ではあるが、実際面からみて大単元主義のみにとらわれない方が望ましく。

### 単元の配列

- ◎ 単元は子供の経験領域の広まるにつれて、社会活動の模倣を多くとり入れる。
- ◎ 単元は子供の発達につれて、断片的な活動から組織的な協力的なものへ移行する。

|       |                    |                                                |
|-------|--------------------|------------------------------------------------|
| 第一保育期 | 幼稚園生活身辺の動植物        | 観迎会・兎の飼育・農学校見学・動物園ごっこ・時計屋さんごっこ・梅雨・水族館<br>ごっこ等。 |
| 第二保育期 | 家庭の再認識と生産・消費<br>交通 | お家調べ・お店屋さんごっこ・汽車ごっこ・交通巡查あそび・暮の町・クリスマス。         |
| 第三保育期 | 通信と協力的な幼稚園生活       | 郵便ごっこ・電話ごっこ・お正月・劇あそび・ひなまつり・卒業製作                |

單元配當表

| 月<br>單元 | 1            | 2              | 3  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
|---------|--------------|----------------|----|-----------------------|
| 四月      | 新人園児<br>歓迎会  | 七 兎の飼育         | 八  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 五月      | こどもの日        | 四 動物園          | 二〇 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 六月      | 時計屋さん<br>ごっこ | 九 梅雨           | 一七 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 七月      | 七夕まつり        | 六 水族館          | 一一 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 八月      | 海水浴          | 一 シヤボン<br>遊び   | 一  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 九月      | お家しらべ        | 二 展覧会          | 三  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 月<br>單元 | 1            | 2              | 3  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十月      | お店屋さん<br>ごっこ | 一七 運動会         | 一七 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十一月     | 遊のりも<br>びの   | 一七 落葉拾い<br>実   | 一七 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十二月     | 暮の町          | 三 クリスマス        | 一四 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 一月      | お正月          | 六 郵便屋さん<br>ごっこ | 一〇 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 二月      | まめまき         | 四 電話ごっこ        | 三  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 三月      | まおひ<br>つひな   | 三 卒業製作         | 一二 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 月<br>單元 | 1            | 2              | 3  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十月      | お店屋さん<br>ごっこ | 一七 運動会         | 一七 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十一月     | 遊のりも<br>びの   | 一七 落葉拾い<br>実   | 一七 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十二月     | 暮の町          | 三 クリスマス        | 一四 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 一月      | お正月          | 六 郵便屋さん<br>ごっこ | 一〇 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 二月      | まめまき         | 四 電話ごっこ        | 三  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 三月      | まおひ<br>つひな   | 三 卒業製作         | 一二 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 月<br>單元 | 1            | 2              | 3  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十月      | お店屋さん<br>ごっこ | 一七 運動会         | 一七 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十一月     | 遊のりも<br>びの   | 一七 落葉拾い<br>実   | 一七 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 十二月     | 暮の町          | 三 クリスマス        | 一四 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 一月      | お正月          | 六 郵便屋さん<br>ごっこ | 一〇 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 二月      | まめまき         | 四 電話ごっこ        | 三  | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |
| 三月      | まおひ<br>つひな   | 三 卒業製作         | 一二 | 日<br>豫<br>定<br>育<br>数 |

単元の展開

子供の活動を有効適切にし、生氣あふれる保育となるかどうかは実はこの展開の如何にかゝる。単元の展開について、静大附属幼稚園では次のようにまとめているが、これは資料単元としても活用でき、参考に供せられ得るものではないかと思う。

一、導 入——幼児の興味が喚起されるように自然に誘導する。

| 種 別             | 教 数 | 単 元 | 名                                                                                                                 |
|-----------------|-----|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①話し合いから入るもの     | 20  |     | 歓迎会・農業学校見学・時計屋さんごっこ・水族館見学・お家調べ・お店屋さんごっこ・暮の町・お正月・郵便ごっこ・電話ごっこ・卒業製作・卒業式・幼稚園生活・お弁当・夏休み・梅雨期の野菜果物・高さ比べ・芋掘り・冬休み・寒さに負けない。 |
| ②遠足・見学から入るもの    | 7   |     | 兎の飼育・動物園ごっこ・水族館ごっこ・お舟ごっこ・汽車ごっこ・巡査ごっこ・クリスマス。                                                                       |
| ③お話・紙芝居・絵本になるもの | 5   |     | こどもの日・七夕まつり・お月見・豆まき・ひなまつり。                                                                                        |
| ④自然の環境に誘発されるもの  | 7   |     | 花摘み・つばめ・雨ふり・かたつむり・おたまじやくしすくい・虫とり・落葉・木の実拾い。                                                                        |
| ⑤人為的環境設定の伴うもの   | 4   |     | 動物園ごっこ・お家調べ・郵便ごっこ・劇あそび。                                                                                           |
| ⑥小学校生徒の刺戟によるもの  | 3   |     | 展覧会・運動会・凧あげ。                                                                                                      |

二、目的——「これをして遊ぼう」というはっきりした目的を持つて、毎朝それを楽しみに登園する  
 三、計 画——幼児は見透しを持つて大きい計画を立てることは出来ないが、教師の提案を皆で話合つて当座の計画を立てる。  
 四、分 業——完全な分業ではないが、四月から徐々に加味して卒業製作まですすめて行く。

|              |    |  |                                                                                                      |
|--------------|----|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ①分業の行われぬもの   | 15 |  | 花摘み・遠足・農学校見学・つばめ・梅雨・海水浴・シャボン玉遊び・ギョールの会・虫取り・お月見・芋掘り・運動会・落葉拾い・暮の町                                      |
| ②分業が少し行われるもの | 6  |  | 歓迎会・幼稚園生活・兎の飼育・こどもの日・七夕まつり・豆まき。                                                                      |
| ③分業の行われるもの   | 16 |  | 動物園ごっこ・時計屋さんごっこ・水族館ごっこ・お舟ごっこ・展覧会・お家調べ・お店屋さんごっこ・汽車ごっこ・交通巡査遊び・クリスマス・お正月・郵便屋さんごっこ・電話ごっこ・劇あそび・ひなまつり・卒業製作 |

五、見 学——地理的に恵まれているのであるべく多く採り入れる。

|              |    |                                                                                |
|--------------|----|--------------------------------------------------------------------------------|
| ①社会見学が行われるもの | 11 | 兎の飼育・農学校見学・時計屋さんごっこ・水族館ごっこ・お舟ごっこ・お家調べ・お店屋さんごっこ・汽車ごっこ・交通巡査遊び・暮の町・郵便屋さんごっこ・ひなまつり |
| ②自然観察の行われるもの | 13 | 花摘み・つばめ・農学校・おたまじやくしやくい・海水浴・虫取り・芋掘り・落葉拾い・遠足・安倍川・鷹巖山・清水山・草薙運動場・狐ヶ崎遊園地            |

六、資料蒐集——関係のある絵・絵本・写真をもつて来たり実物をもつて来て観察したりする。

七、構成的創作活動——劇あそび・ごっこ遊び・音楽リズム・絵画・製作等は殆んど全部の単元活動の主体である。

八、終末活動——一つの遊びのまとめとしての楽しい経験をもつ。

|                    |   |                                                      |
|--------------------|---|------------------------------------------------------|
| ①創作活動によつて経験整理をするもの | 9 | 兎の飼育・おたまじやくしやくい・虫取り・芋掘り・落葉拾い・お正月・つばめ・花摘み・シャボン玉遊び     |
| ②楽しい会を持つもの         | 7 | こどもの日・七夕まつり・お月見・運動会・まめまき・海水浴・ギニョールの会                 |
| ③ごっこ遊びで終るもの        | 7 | 動物園ごっこ・時計屋さんごっこ・お店屋さんごっこ・汽車ごっこ・交通巡査遊び・電話ごっこ・郵便屋さんごっこ |
| ④招待するもの            | 6 | 観迎会・水族館ごっこ・展覧会・おうち調べ・クリスマス・音楽会・ひなまつり                 |
| ④報告会をするもの          | 1 | 卒業製作                                                 |

◇ 週の計畫と一日の計畫

上述のようにして、年計画と月計画を立てれば、次の週の計画、それから一日の計画を立案するであろう。園により保育担当者によつて、夫々適切な計画がなされる筈のものであるが、その計画のあらわし方即ち形式的な面は大体共通であろうから、参考までに具体例を挙げておく。



週 の 計 画

| 〇〇日水曜日                               | 〇〇日火曜日                                       | 〇〇日月曜日                                          | 日 月            |
|--------------------------------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------------|----------------|
| お う ち し ら べ                          |                                              |                                                 | 元 単            |
| おうち<br>しらべ<br>皆のお家                   | 遠足<br>安倍川                                    | 見学<br>幼稚園の<br>周辺                                | 活 中心となる<br>動 動 |
|                                      | 遠足<br>安倍川                                    | 見学<br>幼稚園<br>の周辺                                | 行 車            |
| とびっく<br>ら                            | ぬれたバ<br>ンツは着<br>替える                          | 爪の検査                                            | 健 康            |
|                                      | ・バスの利<br>用<br>・お辨当の<br>後仕末                   | ・幼稚園周<br>辺の建物<br>・交通道徳<br>をまもる                  | 社 会            |
|                                      | 川遊び<br>めだかす<br>く、い、小<br>石、砂<br>川の土手<br>で虫取り  | 避毒針                                             | 自 然            |
| ・自分の町<br>名の発表                        | 話し合い<br>・安倍川の<br>方向<br>・今までに<br>行つた遠<br>足の場所 | 話し合い<br>・知つてい<br>る大きな<br>建物<br>・みて来た<br>もの      | 言 語            |
| 製作<br>皆のお<br>うち                      |                                              |                                                 | 製 画<br>作 容     |
| リズム<br>虫取り<br>おふろ<br>ジャン<br>ケン遊<br>び | うた<br>遠足                                     | リズム<br>おふろ<br>角力<br>虫とり                         | 音 楽<br>リズム     |
|                                      |                                              | ・遠足のく<br>わしいお<br>たより                            | 家 庭<br>連 絡     |
| ・建物の絵や<br>写真を出し<br>ておく<br>・紙の用意      | ・地図の下絵<br>を描いて貼<br>つておく<br>・おうちを作<br>る紙の用意   | ・静鉄へバス<br>の交渉<br>・急救品替<br>他の用意<br>・自転車で実<br>地調査 | 準 備            |

| 時間    | 幼児の活動          |                                                                                                                                                     |
|-------|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | お辨当のない日(火・木・土) | お辨当のある日(月・水・金)                                                                                                                                      |
| 8.30  | 10分            | 登園<br>挨拶<br>視診<br>出席カード                                                                                                                             |
|       | 60分            | 自由遊戯<br><ul style="list-style-type: none"> <li>戸外遊戯</li> <li>絵画製作</li> <li>製作</li> <li>リズム鑑賞</li> <li>レコード鑑賞</li> <li>ごっこ遊戯</li> <li>その他</li> </ul> |
| 9.40  | 15分            | お片付け                                                                                                                                                |
| 9.55  | 5分             | お集り・御不淨                                                                                                                                             |
| 10.00 | 30分            | 主題による遊び<br><ul style="list-style-type: none"> <li>話し合い</li> <li>学画作</li> <li>絵画製作</li> <li>ごっこ遊び</li> </ul>                                         |
| 10.30 | 15分            | 戸外運動<br>遊具による運動                                                                                                                                     |
| 10.45 | 5分             | お片付け・御不淨                                                                                                                                            |
| 10.50 | 25分            | 主題による遊び<br><ul style="list-style-type: none"> <li>音楽</li> <li>リズム</li> </ul>                                                                        |
| 11.15 | 15分            | お帰りの時間<br><ul style="list-style-type: none"> <li>お話・ゲーム・紙芝居</li> <li>反省・計画</li> <li>連絡事項</li> </ul>                                                 |
| 11.30 | 30分            | 下園                                                                                                                                                  |
| 12.00 | 30分            | 自由遊び<br><ul style="list-style-type: none"> <li>戸外運動</li> <li>ごっこ遊び</li> </ul>                                                                       |
| 12.30 | 15分            | お片付け・御不淨                                                                                                                                            |
| 12.45 | 15分            | お帰りの時間<br><ul style="list-style-type: none"> <li>お話・紙芝居・ゲーム</li> <li>反省・計画</li> <li>連絡事項</li> </ul>                                                 |
| 1.00  |                | 下園                                                                                                                                                  |

左

同

食事の用意

食事

食事の後片付け

下園

## ◇ 月の計画と保育内容

年間計画は簡単に単元表という形で一応表わされるけれども具体的には、

- (イ) その月の単元は幾日間で取扱つたらいいか。
- (ロ) その月の単元の目標は何か。
- (ハ) その月の単元は目標に照らしてどんなに展開したらいいか。
- (ニ) 効果をあげたかどうか評価する。

などの項目について計画が立てられるべきであろう。単元取扱の日数は普通月単位か週単位であるが、カレンダーとにらみ合せて実際の保育日数で計画するのも一法ではなからうか。評価欄は必ず設け、しかも抽象的な表現ではなくて、なるべく子供の行動として現われる具体的なもので個々書的に表わしておくことが望ましい。

次に子供の好ましい経験について見る。これまで保育五項目とか十二項目とか称し、時には教科目中心的な考え方、取扱ひ方に陥つた向きも見受られる。保育の本領は子供に豊かな経験、好ましい経験を与えるに在る。学校の教育課程及び統制基準に関する法律案が文部当局により立案計画された時、幼稚園教育課程及指導要録協議会の発足を見、昭和二十四年度末には次のように答申された。

幼稚園の教育課程は学校教育法第七十七条及び第七十八条の目的及び目標を達成するための言語・社会・計算・理科・

音楽・絵画、製作其他を中心として行われる幼児の心身の発達に有益な活動とする。

蓋し、これに幼稚園が学校体系の一環となつたため上級教育に右倣えした形、或はカリキュラム研究の流行に余り眩惑されてしまつたと見られる。保育の理論的研究の上からは経験内容や指導内容の分折は必要であるが、科目的な学習的な保育は幼児教育上唾棄すべきであろう。その表現法の巧拙によつては保育の場に却つて大混乱を齎らす恐れなきにしも非ずである。其後、

幼稚園の教育課程及び活動は保健体育・社会・理科・言語・絵画製作・音楽に関する自由な経験及指導とする。

と改められたが、尙これでもすつきりしていない。最後案では恐らく次のように落ちつくのではなからうか。

幼稚園の活動及び経験は健康・社会・自然・言語・絵画製作・音楽リズムの領域に関するものとする。

要するに従来の項目や科目という表現を避けて、経験内容とか経験領域に関するものという表現を用いた所に苦心を拂つたと見る。この経験領域に基いて保育内容を発達系列とにらみ合せて計画表を作つてみると、年間計画は一層具体化されて月の計画(月案)となつてくる。

紙幅の都合で十二ヶ月分の月計画表を掲げることが、割愛し、御参考までに六月の計画表だけを掲げよう。

| 年間   | 社       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 生活領域 | 経 験 内 容 | <p>生命の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 手洗いを忘れない。</li> <li>● おべん当をよい態度で頂く。</li> <li>● 体格検査、内診を秩序よく受ける。</li> <li>● 雨の日の注意事項をまもる。</li> <li>● たべものについて話し合い、好き嫌を言わない。</li> <li>● 早寝。早起きをはじめ、規則正しい生活をする。</li> <li>● 病気にかからないようにするには、どうしたらいいか。話し合う。</li> <li>● たべすぎ、寝冷をしないこと、日向へは帽子をかぶって出ること等を守る。</li> <li>● 駆虫剤、豫防注射等を嫌がらないでする。</li> <li>● 咳は人の迷惑にならないようにする。</li> <li>● 風邪について話し合い、鼻のかみ方、厚着をしないこと等を理解して行う。</li> <li>● 廊下は走らない。</li> <li>● 高い所へは登らない。</li> <li>● 道路で遊ばない。</li> <li>● 焚火、ストーブに注意する。</li> <li>● 危険な場所や物へは近寄らない。</li> <li>● のりものに注意し、交通道德を守る。</li> <li>● 汽車の窓などから手や首を出さない。</li> <li>● 火遊びをしない。</li> <li>● 水泳の注意を守る。</li> <li>● 遊びに行く時は行先きを言う。</li> <li>● 友達同志で危い所へ行かない。</li> <li>● 遠くへ遊びに行かない。</li> </ul>                                                                                                                                                               |
| 生活領域 | 経 験 内 容 | <p>交 通</p> <p>通 信</p> <p>厚 生 慰 安</p> <p>美 的 表 現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電車、バス、汽車、船を利用した場合には、乗り降りに気をつけ、秩序よく行う。</li> <li>● 坐席を交替する、車内を汚さない。</li> <li>● 乗物を利用するにはどうしたらいいか理解する。</li> <li>● 駅の人の働きをみる。</li> <li>● 交通巡査の仕事をみる。</li> <li>● 交通道德を守る。</li> <li>● 乗物の種類、特徴を理解する。</li> <li>● 荷物はどうして運ばれるか理解する。</li> <li>● おたよりをお家へ間違いないで届ける。</li> <li>● 郵便屋さんの仕事を理解する。</li> <li>● おたよりを出す。</li> <li>● 郵便物の大体の経路を理解する。</li> <li>● 電話の利用価値を理解する。</li> <li>● 自由遊びの時、絵、音楽等好きなことをする。</li> <li>● お友達同志で団体遊びをする。</li> <li>● いろいろ／＼な行事をたのしく行う。</li> <li>● 運動会をする。</li> <li>● 音楽会やお話会をする。</li> <li>● 遠足に行く。</li> <li>● 毎月お誕生会をする。</li> <li>● 食後をたのしくすこす。</li> <li>● 庭やお部屋の掃除を手伝う。</li> <li>● 皆の作品でお部屋を飾る。</li> <li>● お部屋へ額ぶちや絵を飾る。</li> <li>● お部屋へお花を飾る。</li> <li>● 遊具、反古紙等のおかたづけを毎日する。</li> <li>● 手洗い、御不淨をきれいに使用する。</li> <li>● 下駄箱、傘立をいつも整頓しておく。</li> <li>● 着物や持物を無暗に汚さないようにする。</li> </ul> |

會

自然及社会資  
源の保護利用

物の  
消分生  
費配産

- 花壇や木を大切に作る。
- バードデーのおはなしをきく。
- つばめの可愛がる。
- 緑の週間のおはなしをきく。
- 蟬とりを行う。
- 雨が何故、降るのか考える。
- 水を大切に使う。
- 小・中学校へ見学に行き、勉強の邪魔にならないよう気をつけてみる。
- 養学校見学に行ってお世話になった先生に御礼をいう。
- 狐ヶ崎遊園地等へ行ったとき、後は後仕末をきれいにし、入ってはならないところ、木を折らないこと等の規則をよく守る。
- お店屋さん見学をして大人の忙しい生活にふれ、邪魔にならぬよう気を付ける。
- 水族館、海水浴、動物園等の施設を利用する。
- 共同募金の話をきき、社会生活の相互依存を理解する。
- 花壇の手入れをする。
- 虫を飼育する。
- 玩具、カレンダー等を作る。
- 卒業製作をいろいろして残して行く。
- お手伝いをいろいろして残して行く。
- 贈り物を作ってお世話になった人へ上げる。
- 田植、稲刈をみてお百姓さんの仕事を理解する。
- どんな職業があるか、自分の家の職業を表表してみる。
- 保育材料等を分配する。
- 保育用品、保育材料、遊具の使用法を考える。
- どんなお店があるのか調べてみる。
- いろいろな売買取っこの経験をもち。
- 買物が出来るようになるの経験をもつ。
- お店、デパートがどんなに役に立っているか理解する。
- 物を大切に使う。

政  
治

交  
際

- 仲よく遊ぶにはどうしたらいいか考える。
- どういう事をしたら友達に嫌われるか考える。
- 話し合いをして事を決め、すぐ喧嘩をしない。
- 友達の見、作品を尊重する。
- グループをつくる。
- お当番制をつくる。
- 生活のきまりを守る。
- やくそくを守る。
- どんなことをやりたいか希望をいう。
- 話し合いをする。
- 相談をして事を決める。
- 役割をきめる。
- 分業で仕事をしめる。
- 協力して仕事をしめる。
- 皆ではげみ表をつける。
- 並んで歩く。
- 順番に並ぶ。
- よい子の一日について考える。
- 新入生の世話をしめる。
- 知らない人にもお話が出来る。
- 自分の名前、町名をいうことが出来る。
- きかれたらいつでもすぐ返事をする。
- 相手のいうことをよくきく。
- さよなら、お早よう、頂きます、一等の挨拶
- ありがとう、ごめん、さい、おめでとうを覚える
- 新入生を誘って登園する。
- 歓迎会を開く。
- お母様や年少組を招待する。
- お母様や年少組を案内する。
- お母や年少組に説明をする。
- 贈物を上げたり、頂いたりする。
- お見舞の手紙をあげる。
- お客様に行つたときの態度について話し合う。
- お客様をお招きする。

これを幼児生活経験の種類(保育要領による)によつて考えれば次の如し。

| 六月  | 調 査                                                                                        | 園 外 保 育                 | 戸 外 運 動          | 身 体 的 習 慣                                                                                               | 評 価                                                                                                     |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 健 康 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・身長、体重測定</li> <li>・歯の検査</li> <li>・睡眠時間調査</li> </ul> | 清水山遠足<br>おたまじやくしす<br>くい | ハンカチ落とし<br>かくれんぼ | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがき</li> <li>・雨具の使用</li> <li>・梅 雨</li> <li>・きまりよい生活</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・歯みがきの習慣はついたか。</li> <li>・濡れたままではないで直ぐ拭くことができるようになったか。</li> </ul> |

| 六月  | 経 験 内 容                                                           | 自 然 観 察                                                                                                                 | 時 季 の も の                                | 数 概 念                                                             | 評 価                                                                                                                                                                                                                    |
|-----|-------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自 然 | 時計屋さん見学<br>雨ふり<br>かたつむり探し<br>おたまじやくし<br>すくい<br>野菜、果物を買<br>つてきてあそぶ | いろいろの時計<br>(形、種類、音)<br>お天気表<br>(晴、雨、曇)<br>虹、プリズム、かたつむり<br>おたまじやくし、めだか、貝、<br>えびかに<br>びわ、大根、人参、ごぼう、玉葱、<br>キヤベツ、いも其他の形、色、味 | 毛 虫<br>みみず<br>梅の実<br>百 合<br>あじさい<br>糊のかび | 数える<br>お天気表<br>時計のなる音<br>音当て遊び<br>操 作<br>物の売買をする<br>時 間<br>お辨当の時間 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・汚ないと思つたりしないで、ど<br/>             んどん実物をつかむことができ<br/>             るか。</li> <li>・すんだら手洗いをすることを忘<br/>             れないか。</li> <li>・物の変化に驚きを感じたか。</li> <li>・実物について数えられるか。</li> </ul> |

|      |                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 六月   | 話 し 合 い                                                                                                                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計屋さん見学</li> <li>・お店やさんの</li> <li>応対</li> <li>・雨の日について</li> <li>・おたまじやくし</li> <li>をかこんで</li> <li>・時季の野菜と、</li> <li>果物について</li> </ul> |
| 発表   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計屋さんで見たもの</li> <li>・時計屋さんごっこ</li> <li>で作りましたもの</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・時計屋さん</li> <li>野菜劇</li> <li>おつかい</li> <li>ことばあそび</li> <li>野菜の名前</li> <li>時計屋さんごっこ</li> </ul>                                         |
| 劇あそび | ごっこあそび                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                              |
| 絵本   | <ul style="list-style-type: none"> <li>時計の絵本</li> <li>いろいろ</li> </ul>                                                                                        |                                                                                                                                                                              |
| 絵 画  | <ul style="list-style-type: none"> <li>ぴよん太郎</li> <li>かにのえん</li> <li>そく</li> <li>金魚と</li> <li>どじよう</li> <li>エデンの</li> <li>お人形</li> </ul>                     |                                                                                                                                                                              |
| おはなし | <ul style="list-style-type: none"> <li>時の記念日</li> <li>ジャックと</li> <li>豆の木</li> <li>赤いめんどけ</li> <li>雨もり</li> <li>ぶんぶく茶釜</li> <li>ひようたん</li> <li>ラジオ</li> </ul> |                                                                                                                                                                              |
| 評 価  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとう、さよならなどのあいさつができるか。</li> <li>・先生対グループの話し合いができるか。</li> </ul>                                                      |                                                                                                                                                                              |

|           |                                                                                                                           |                                                                                                                  |
|-----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 六月        | 絵 画                                                                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>時計屋さん</li> <li>雨ふり</li> <li>かたつむり</li> <li>おたまじやくし</li> <li>野菜</li> </ul> |
| 図 案       | <ul style="list-style-type: none"> <li>大時計</li> <li>看板の飾り</li> </ul>                                                      |                                                                                                                  |
| 評 価       | <ul style="list-style-type: none"> <li>のびのびと大きく描く</li> <li>ようになったか。</li> </ul>                                            |                                                                                                                  |
| 積 木       | <ul style="list-style-type: none"> <li>時計屋さんの</li> <li>お店</li> </ul>                                                      |                                                                                                                  |
| 木 工       |                                                                                                                           |                                                                                                                  |
| 粘 土       | <ul style="list-style-type: none"> <li>野菜</li> <li>野菜</li> </ul>                                                          |                                                                                                                  |
| 自 然 物 利 用 |                                                                                                                           |                                                                                                                  |
| 製 作       | <ul style="list-style-type: none"> <li>腕時計、目覚時計、ふくろう時計、柱時計、鳩時計、大時計、看板、お金、アンテナ、石段</li> <li>山、汽車、川、電車、道、人、自動車</li> </ul>    |                                                                                                                  |
| 種 類       | <ul style="list-style-type: none"> <li>立休</li> <li>貼紙、剪紙</li> <li>ちぎり紙</li> </ul>                                         |                                                                                                                  |
| 評 価       | <ul style="list-style-type: none"> <li>あとかたづけが上手にできるか。</li> <li>粘土の正しい取扱いや後始末ができるか。</li> <li>作品の巧拙の判断が正しくできるか。</li> </ul> |                                                                                                                  |

| 音 樂 リ ズ ム                                                     |         |                                             | 六 月         |
|---------------------------------------------------------------|---------|---------------------------------------------|-------------|
| 四拍子<br>アンダンテ<br>アレグロ                                          | 基礎練習    |                                             | レコード鑑賞<br>き |
| 時計やさん<br>雨の日                                                  | 表現      | 時計屋の店に<br>て<br>蛙の行列                         | 評 価<br>く    |
| 大時計、柱時計、目<br>覚時計、鳩時計等の<br>表現<br>雨、おたまじやくし、<br>蛙、かたつむり等の<br>表現 | あそび     | 時計<br>ほたる<br>雨                              | 歌<br>う      |
| お使い                                                           | ゲーム・ダンス | 鳩時計<br>かたつむり<br>おたまじやく<br>し<br>かえるの子<br>雨だれ | 既習・歌<br>た   |
| どなたの<br>細道<br>スキップ<br>いろく                                     | 既習のゲーム  | 言葉をはつき<br>りと歌えるよ<br>うになつたか                  | 評 価<br>う    |
| ほたる                                                           | 唱歌遊戯    | 四拍子の歌や<br>曲の<br>・自由打<br>・拍子打                | 楽器あそび<br>ひ  |
| 曲に合せて<br>表現できるか。                                              | 評 価     | 楽器を大切に取扱う<br>ことができるか。                       | 評 価<br>く    |



## ◇ 指導の要領

指導要領とはどんなものか、またどんな役割をもつものか。この解説を易くするために私は卑近の例をあげてみよう。御料理をつくる場合、色々の材料を取揃え腕前を振つて滋味豊かな御馳走を作つても、その人に向く味をつけなければ拙角の御馳走はまづいとけなされてしまう。この好ましい味付即ち御馳走の塩加減というものはその人その人によつて異なり仲々難かしい。丁度カリキュラムがこの御馳走に当り、指導要領がこの味付け、塩加減に相当するのではないかと思う。

上級学校に於てはこれを学習指導要領コース・オヴ・スタデーと謂つてゐるが、幼稚園では学習指導するのではないから学習指導要領と謂つては当を得たものとは謂えまい。生活指導や保育するのであるから、保育要領と謂うべきであらう。ところが、既に保育要領という本は使用している。同一名称の本が二冊あつたらばまぎらわしいことになるだろう。そこで私は幼児の生活を指導するという意味で「指導要領」と名付けてみた。幼稚園用の意味をもたせて「幼児指導要領」と謂えば、はつきりすると思う、近々「幼児指導要録」が従来の園籍簿にとつて代つて公にされると聞く——本誌が御手許につく時までには公示される予定——、そうすると語呂の似たものが二つになるから、又まぎらわしいことになる。指導書の名称を決めるにも仲々むづかしい。とにかくコース・オヴ・スタデーではなくて、コース・オヴ・ナーサリーの意味をはつきりもつ指導書を渴望する。学校教育法などから推してみて当然こういふ指導書が刊行されなければならないかと思う。

既刊の「保育要領」は久しい前から改訂するやうなことを耳にしている。「音楽と動きのリズム」について研究協議会や講習会が既にあつたので、改訂の着手したものとおぼろげながら察知することが出来る。改訂保育要領を私の謂う指導要領に充用するならするで、一日も早くはつきりと公示してほしい。此際私はこういう提案をしたい。既刊の保育要領は次の二つの方向を以つて改訂し別冊に公刊したら如何。一つの方向は家庭教育向け、幼稚園や保育園の案内書・手引用に改訂する。他の方向は私の謂う指導要領コース・オヴ・ナーサリーという指導書用に改訂する。今日、保育實際家の齊しく渴望しているのは後者の指導書であることを強調して欄筆することにする。

# 幼稚園における指導要録について



文 部 事 務 官

玉 越 三 朗

幼稚園が、学校として発足してから、その教育課程と指導とは、一は教育内容構成の面から、一は教育目標達成の方法技術の面から、各幼稚園においても、しんげんに研究されてきた。これは、幼稚園が学校教育機関となつた以上は、当然のことである。

文部省においても、これらについては、いろいろの面から、新しい教育にふさわしい形式と内容を一日も早く持つように、かねがね研究を重ねてきたその結果、このたび指導上もつとも必要な記録簿である、幼児指導要録の様式を別紙のとおり決定して、この三月三日付で各都道府県教育委員会・都道府県知事・五大大市教育委員会並びに国立大学長あて通達した。

指導要録は、新しい教育の要請にもとずいて生れたものであるから、その取扱に当つては、新しい教育が要請する幼児の全人的完成の意味と、その手段として不可欠な指導の意義とをじゆうぶん理解して、その方法や技術をよく身につけておくことが、先決条件である。

こうした態度ができてはじめて、指導要録の様式の活用も真に意義をもつてくるのである。

各幼稚園では、今後指導についていよいよ研究をかさね、この指導要録が、じゆうぶん活用、利用されるよう、切に望むものである。

以下その主な点について少し述べることにするが、記入上の留意点については、紙面の都合上後にゆずることとした。

なお指導の意義その他については、本誌昨年九月号の「新教育における指導について」を参照されたい。

## 一、指導要録のできるまで

幼稚園が従来の家庭教育の補助的役割から脱却して新しく学校教育の一環として出発してから、新しい幼稚園にふさわしい内容を、早急に具体的に示す必要を感じ、さきに保育要領が刊行された。

これとともに、この内容に伴なう指導の結果の、適切な評価の方法について、標準的な様式がほしいとの要望が多くなつた。

それと相前後して、保育要領についても、再検討の必要が叫ばれてきたので、文部省においては、諮問機関として昭和二十五年一月六日、本省内に幼稚園教育課程幼児指導要録協議会を設けて、その教育課程と幼児指導要録とに関する調査研究をはじめた。

委員には、この方面の専門家、實際家が全国から選ばれ、文部省関係官とともに、度々会合していろいろ議論がたたかわされたが、(教育課程については、協議の結果後にゆずることとなつた。)同年五月一応協議会としての成案を得るに至つたので、これについての意見を、全国各国立大学附属幼稚園と東京都・千葉県・福島県・静岡県・大阪府・奈良県・岡山県・大分県各プロック代表府県に求めその意見を参酌し、さらに関係各方面の意見をも加えて、検討に検討を重ね、ようやく三月三日別掲のように(記録欄参照)正式に決定して、直ちに各都道府県に到達された。

## 二、指導要録の性格

文部省が、都道府県教育委員会等に送つた通達には、次のように書かれている。

「このたび、かねて研究中の幼稚園の指導要録の様式が別紙のとおりまとまりましたので、参考のためお送りいたします。

地方ならびに幼稚園は、この様式を参考として、おのそのの実情に応じて、決定されるよう望みます。」

この通達によつてもわかるように、このたびの幼児指導要録の様式の、形式的な性格は、地方ならびに幼稚園が、この様式を参考として、おのそのの実情に応じて決定されるようになつてゐる。いはばこの様式は、地方ならびに幼稚園が決定する様式の、基準案としての性質を持つてゐるものである。

内容についての性格は、同じく通達の「指導要録の趣旨とその取扱について」に次のように書かれている。

幼児指導要録は、次のような趣旨でつくられたものである。

1 おのそのの幼児の成長発達経過を、全体的・継続的に記録して、幼稚園における幼児の指導を、より適切にするための原簿である。

2 記録すべき事項は、幼稚園教育の目的や目標から考へて、特に必要と認められる最少限のものを選んでゐる。

3 項目は、小学校教育との連関をじゆうぶん考慮し、かつ幼児の全体的発達に必要なもののみを選んでゐる。

4 記録の方法は、できうるかぎり客観的に、しかも簡単に、かつ容易に記録できるようになつてゐる。

この通達によつてもわかるように、その重点は、

A 幼児教育の指導原簿であること。

幼児を指導して、正しい成長発達をさせるためには、常に全体的に幼児を観察し、全体としての子供として理解する必要がある。

このためには、その幼児について各方面から観察し、いろいろな記録が準備される必要がある。この指導要録は、その記録簿の中でもいちばんもとなる記録簿であるといふことである。

この意味から、学校教育法施行規則第十五条でも、とくに十年以上の保存を命じ、同法第三十六条（準用）でも、ことさら園長の重要事務として、その編製の義務を規定している。

B 必要にして充分な記録事項を選んでゐること。

幼児指導要録が、真に幼児のための指導に役立つものであるためには、指導に必要な材料をできるだけ多方面にわたつて集める必要がある。この意味から考えると、指導要録は、なるべく大きなものとして、記録も詳細にできるようなものがよい。しかし、一面指導要録を記録する教師の手数やそれに要する時間と、さらに指導要録が必らず記

録しなければならぬ公簿であるといふところから、あまり大きなものでは、記録としての形式や体裁を整えるあまり、その本来の目的である、幼児の成長発達を助ける資料として、役立てるものである役割を忘れて、記録のための記録となつて、実際の指導の効果があらわれなくなるおそれがある。

それかといつて、簡略ではあるが、その記録事項や内容が、指導要録の機能を發揮しうる条件をみたしてゐないといふのでは、何の役にも立たなくなる。

そこで、この指導要録では、幼稚園の目的及び目標から考えて、ぜひともなければならぬといふ重要なものを、えりにえつて最少限にとどめ、しかもじゆうぶんその機能を發揮することができるように、研究に研究を重ねて決定した。

この意味から、名称も指導記録簿とも指導原簿ともいわず、指導要録としたのである。

C 項目は、小学校との連関と、幼児の特性とから選んでゐること。

幼児は、すべて幼稚園をおわつてから、小学校に進学する。その間には、生活の中断もなければ飛躍もない。教育指導においても、幼児を中心としている以上、決して中断もなければ、飛躍もない。

また新しい学校教育においては、あくまで子供を中心としてゐるため、その教育の重点には幼稚園であらうと小学

校であらうと、何の変りもなく、幼稚園教育の重点とするところは、小学校教育もこれを重点とし、小学校教育が主眼としてゐるところは、幼稚園教育もこれを主眼としてゐる。ただその表現については、子供の成長発達段階の差にしたがつて、多少の差異があることは当然のことである。指導についても同様で、小学校の目的及び目標から出てゐる児童指導要録も、幼稚園の目的及び目標から出てゐる幼児指導要録も、その指導の主眼なり重点なりは同じである。

それゆゑ、幼児指導要録は、小学校の児童指導要録と同じゆゑぶん連絡をとつており、かつ幼児の特性はあくまで考慮にいれて選んでゐる。

#### D 客観的で、簡単に記録である。

指導要録の記入方法は、できるだけ客観的にされるように、しかもなるべく簡単にでき、かつだれにも容易にできるように考へた。

客観的な記録という点は、いろいろな標準検査の記録を重視したり、評価の観点を望ましい状態・態度・能力等を示した機会の多寡においたことなどにある。もちろん客観的といつても、通達に示してある通り、「できうるかぎり客観的」ということであつて、絶対的な客観性を期待してゐるのではない。

簡単化と容易化という点は、実際指導者の側からみれば、相当不満の意見を持つようにも思はれるが、いかによ

い様式ができて、事実上それが記入できないような複雑なものであり、困難なものであつたなら、何の役にも立たないものとなる。そこで大部分の記録を、単にしるしをつければすむようにした。

### 三、指導要録の取扱

指導要録の取扱については、従来明確な規定を欠いてゐたが、このたびの学校教育法施行規則の一部改正（昭和二十五年十月九日文部省令第二十八号）で、小学校、中学校、高等学校における指導要録の取扱と同様にした。

その主な留意点は、

1 園長は、その幼稚園の幼児の指導要録を編製しなければならぬ義務を持つようになつた。

2 園長は、幼児が他の幼稚園に轉園した場合や小学校に進学した場合は、その幼児の指導要録を、必ず轉園先の園長や進学先の校長に送らなければならないようになつた。

3 園長は、轉園または進学した幼児については、必ずその幼児の指導要録の抄本を、作製しておかなければならないようになつた。

4 幼稚園は、指導要録またはその抄本を十年以上保存しておかなければならないようになつた。

ことである。

指導要録についての編製その他の事務を、とくに園長の

重要事務として法令で義務づけ、その保存を他の表簿ときりはなして、とくに十年間とした理由は、指導要録の性格のところでもふれたが、幼稚園で行われる実際活動も、事務も、直接と間接との差こそあれ、すべてが幼児のよりよい成長発達への、助力のための活動なり事務である。そして幼児の成長発達への助力のためには、何よりも幼児を正しく理解するということが必要であり、その理解のもとに指導するということが幼稚園の生命である。

それゆえこのための記録は、幼稚園においてはもつとも重んじられなければならない。

とくにそのいちばんもとなる記録簿である指導要録であるから、このような措置がとられるのは、当然のことといわなければならない。

また、指導要録の原本を、幼児の轉園先や進学先に送るよう措置したのは、指導要録が、その幼児に関する成長発達の記録であり、その成長発達に加えられた指導録であるという意味から、常に幼児と、ともになければならぬという考えからである。

なお在園した幼稚園には、たんに在園したという証拠的な記録——抄本——を留めておけばよいという理由も、ここからでてくる。

#### 四、指導の観點

指導要録を、真に指導の原簿とするためには、どのよう

な内容を盛るべきかということについては、最もしんげんに考えなければならぬ問題である。委員会でも、省内でもすいぶん議論されてきたが、結局幼児の成長発達を助長する幼稚園教育の根本である、幼稚園教育の目的、目標を主眼として、その内容を定めることが正しいということになつた。

そしてこれを、

- 1 身体の状況
- 2 健康の習慣
- 3 しごとの習慣
- 4 社会生活
- 5 自然
- 9 言語
- 7 音楽・リズム
- 8 絵画・製作

に分けた。しかしこれらの事項は、指導上の便宜のため、一応分析してみただけのことであつて、その指導については、あくまで幼児全体として、全体の幼児としてみる必要がある。

そこで最後に

#### 9 全体としての指導の経過

を加え、全人としての幼児についての指導の経過を記録するようにした。なおこの項には、前の八項目を全体系の部分として関連的に観た場合も、もちろん記録されるのであ

ることを忘れてはならない。

なお、具体的な指導の着眼点については、学校教育の本質から考えて、家庭や親に責任があつて、幼児自からはどうにもできないようなものは避け、幼児自からが行うことのできるような活動から、望ましいものを選んだこと、知的・情緒的・社会的・身体的というような観察の方法をとらなかつたため、情緒的な面と健康の習慣と身体的な面とが物足りなく思はれる点がないでもない。

しかし情緒的な面は二・三項目を併せ考えれば観察でき、健康・身体面は発育の状況・病気の記録欄等を活用すればその不足は補なえると思はれる。

## 五、評價の観點

評價については、小学校・中学校・高等学校の観點とは相違して、幼児がよりよい成長発達を遂げるために必要であり、かつ望ましい状態なり態度なり能力なりを示した機會の多寡においたことは前にもちよつとふれた。

これは、指導が幼児それぞれの特性を基として、行われるのであつて、その幼児を含むグループを基盤として行われるものでないからである。

若しその品等を五段階なり三段階なりにすれば、結局はグループを基盤として、グループの中における位置をあらわすようになり、相对比较の意味が加味されてくる。こうなつては眞の指導の意義からそれゆくおそれがある。

また五段階なり三段階なりの品等を用いると、いきおい

それがその幼児の能力の差を示すものと考えられるようになり、この幼児は優秀である、あの幼児は劣等である、この評価によつて幼児の価値が評価されるようになる。

これは評価の意味に反するばかりでなく、指導要録が指導の原簿であるという趣旨にも反し、ひいては新しい幼稚園教育の目的にも反することになるため、幼児指導要録では、指導の結果、幼児が望ましい状態なり態度なり能力なりを示した機會の多寡を評価の基準とするように定めた。

## 六、全體としての指導の経過

このことについては、前にも少しふれたが、指導記録の基本的性格は、いうまでもなく、個々人の最大限の発達を助ける手段という観點におかれるのである。

最大限の発達とは、それぞれの幼児が、その持つている能力を、あらゆる方面においていかに発揮できるといふことで、そこに幼児全体としての成長がある。

もちろん、しごとの習慣をつけるための指導も、音楽・リズムの指導も全体としての重要な一部ではある。しかしこれらをどれほど個々に指導しても、それで全体としての指導ができたとはいえない。個々の指導はあくまで個々の指導で、それは全体としての指導とはならない。

全体としての幼児とは、幼児の全人格としての指導である。この意味から、とくにこの項を設けて、指導要録の意義を明らかにし、幼児の全人格としての進歩の経過や、それに対する指導の経過及び将来この幼児はどう指導するか、するつもりか等をとくに記録してもらふようにした。

記録

幼稚園の幼児指導要録について

文部省ではこの程別紙写のように、新教育にもとづく幼稚園の幼児指導要録の様式を決定し、三月三日付を以て、各都道府県教育委員会、都道府県知事、五大市教育委員会並びに国立大学長あて通達した。

寫

文初初第二〇七號

昭和二六年三月三日

都道府県教育委員会

都道府県知事

五大市教育委員会

殿

文部省初等中等教育局長

辻 田 力

幼稚園の指導要録について(通達)

このたび、かねて研究中の幼稚園の指導要録の様式が、別

紙のとおりまとまりましたので、参考のためお送りいたします。

地方ならびに幼稚園は、この様式を参考として、おのその実情に応じて、決定されるよう望みます。

なお、幼児指導要録の趣旨とその取扱については、別紙を参照願います。

寫

文初初第二〇七號

昭和二六年三月三日

教育部又は学藝学部を置く  
国立大 学 長 殿

文部省初等中等教育局長

辻 田 力

幼稚園の指導要録について

このことについて、別紙写のとおり各都道府県教育委員会、都道府県知事・五大市教育委員会に通知いたしましたから、御通知いたします。



## 幼児指導要録の趣旨とその取扱について

### 1. 幼児指導要録の趣旨

幼児指導要録は次のような趣旨でつくられたものである

- 1 おのおの幼児の成長発達の経過を、全体的、継続的に記録して、幼稚園における幼児の指導を、より適切にするための原簿である
- 2 記録すべき事項は、幼稚園教育の目的や目標から考えて、特に必要と認められる最少限のものを選んでいる
- 3 項目は、小学校教育との連関をじゆうぶん考慮し、かつ幼稚園の全体的発達に必要なもののみを選んでいる
- 4 記録の方法は、できうるかぎり客観的に、しかも簡単に、かつ容易に記録できるようになっている

### 2. 幼児指導要録の取扱い

幼児指導要録の取扱いは、学校教育法施行規則（第15条及び第36条）に明らかであるが、次の点は特に留意する必要がある

- 1 園長は、幼児が他に転園し、あるいは小学校に入学した場合は、幼児指導要録を転園先の園長または入学先の校長に、必ず送付しなければならない
- 2 園長は、幼児が転園あるいは小学校に入学した場合は、その幼児の指導要録の抄本を作製しておかなければならない
- 3 抄本には、少なくとも次の事項を記載することが望ましい

#### ● A、幼児について

- |           |                     |
|-----------|---------------------|
| a 氏 名     | f 入園年月日             |
| b 性 別     | g 修了または転退園          |
| c 生 年 月 日 | h 転園先または進学先の学校名と所在地 |
| d 現 在 所   | i 出欠の状況             |
| e 本 籍 地   | j その他必要な事項          |

#### B、保護者について

- |           |          |
|-----------|----------|
| a 氏 名     | d 本 籍 地  |
| b 現 年 月 日 | c 本人との関係 |
| c 現 在 所   |          |

- 4 幼児指導要録またはその抄本は、10年以上保存しておかなければならない

# 幼 児 指 導 要 録

| 幼 稚 園 名         | 年 度                   | 学年初めの<br>幼児の年齢 | 園 長 氏 名 印 | 担 任 職 氏 名 印   |      |     |     |  |
|-----------------|-----------------------|----------------|-----------|---------------|------|-----|-----|--|
|                 |                       |                |           |               |      |     |     |  |
|                 |                       |                |           |               |      |     |     |  |
|                 |                       |                |           |               |      |     |     |  |
| 在 籍 の 記 録       | ふりがなつき<br>氏 名         |                |           | 性別            | 男・女  |     |     |  |
|                 | 生 年 月 日               |                |           |               |      |     |     |  |
|                 | 現 在 所                 |                |           | 電話または<br>連絡方法 |      |     |     |  |
|                 | 本 籍 地                 |                |           |               |      |     |     |  |
|                 | 保 護 者 名               |                |           | 本人との関<br>係    |      |     |     |  |
|                 | 入 園 年 月 日             |                |           |               |      |     |     |  |
|                 | 修了又は転退園               |                |           |               |      |     |     |  |
| 生 育 と 家 庭 の 記 録 | 生 育 地                 |                |           | 主として養<br>育した人 |      |     |     |  |
|                 | 発 育 の 状 況             |                |           |               |      |     |     |  |
|                 | 病 気 の 記 録             |                |           |               |      |     |     |  |
|                 | 入園前に入所した<br>保育所其他所の施設 |                |           |               |      |     |     |  |
| 家 庭 の 記 録       | 事 項                   | 氏 名            | 性別        | 続柄            | 生年月日 | 職 業 | 学 歴 |  |
|                 | 父 母                   |                |           |               |      |     |     |  |
|                 | 兄 弟 姉 妹               |                |           |               |      |     |     |  |
|                 |                       |                |           |               |      |     |     |  |
|                 |                       |                |           |               |      |     |     |  |
|                 | そ の 他 の<br>人 々        |                |           |               |      |     |     |  |
|                 |                       |                |           |               |      |     |     |  |

|       |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|-------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 出欠の記録 | 年度   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|       | 学期   | 1 | 2 | 3 | 計 | 1 | 2 | 3 | 計 | 1 | 2 | 3 | 計 |
|       | 出席日数 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|       | 欠席日数 |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| 欠席の理由 |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |

|         |       |        |    |            |       |
|---------|-------|--------|----|------------|-------|
| 標準検査の記録 | 検査の名称 | 実施の年月日 | 年令 | 知能指数または偏差値 | 実施者氏名 |
|         |       |        |    |            |       |
|         |       |        |    |            |       |
|         |       |        |    |            |       |

|                  |                 |                     |                     |                     |
|------------------|-----------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 事                | 年度              | 評 価                 |                     |                     |
|                  |                 | たい とき まれ<br>てい とき に | たい とき まれ<br>てい とき に | たい とき まれ<br>てい とき に |
| 身<br>体<br>状<br>況 | 1. 皮膚が清潔で色つやがよい | — —                 | — —                 | — —                 |
|                  | 2. 元気がよい        | — —                 | — —                 | — —                 |
|                  | 3. 姿勢がよい        | — —                 | — —                 | — —                 |
|                  | 4. 運動や動作の調節ができる | — —                 | — —                 | — —                 |
|                  |                 | — —                 | — —                 | — —                 |
|                  |                 | — —                 | — —                 | — —                 |

|                       |                |     |     |     |
|-----------------------|----------------|-----|-----|-----|
| 健<br>康<br>の<br>習<br>慣 | 1. おちついてたべる    | — — | — — | — — |
|                       | 2. 手をあらう       | — — | — — | — — |
|                       | 3. はなをきれいにしている | — — | — — | — — |
|                       | 4. 手や物を口に入れない  | — — | — — | — — |
|                       | 5. そとで遊ぶ       | — — | — — | — — |
|                       | 6. よく休息する      | — — | — — | — — |
|                       |                | — — | — — | — — |
|                       |                | — — | — — | — — |

|                            |                             |     |     |     |
|----------------------------|-----------------------------|-----|-----|-----|
| し<br>ご<br>と<br>の<br>習<br>慣 | 1. しごとのしかたをよくまもる            | — — | — — | — — |
|                            | 2. しごとをやりとげる                | — — | — — | — — |
|                            | 3. 自分からすすんでやる               | — — | — — | — — |
|                            | 4. 材料や道具をわけあつて使う            | — — | — — | — — |
|                            | 5. 物や道具をたいせつにする             | — — | — — | — — |
|                            | 6. くふうしてやる                  | — — | — — | — — |
|                            | 7.                          | — — | — — | — — |
|                            | 8.                          | — — | — — | — — |
| 社<br>会<br>生<br>活           | 1. ひとと仲よく遊ぶ                 | — — | — — | — — |
|                            | 2. ひとのものをだいじにする             | — — | — — | — — |
|                            | 3. 順番をよく守る                  | — — | — — | — — |
|                            | 4. ひとのめいわくにならないよ<br>うに静かにする | — — | — — | — — |
|                            | 5. つつしみのある動作や態度が<br>とれる     | — — | — — | — — |
|                            | 6. 親切である                    | — — | — — | — — |
|                            | 7. 遊びやしごとが公正である             | — — | — — | — — |
|                            | 8. 責任をもつて分担したしごと<br>をする     | — — | — — | — — |
|                            | 9. ひとに助力する                  | — — | — — | — — |
|                            | 10.                         | — — | — — | — — |
|                            | 11.                         | — — | — — | — — |
| 自<br>然                     | 1. 身近かな事物について知りた<br>がる      | — — | — — | — — |
|                            | 2. 注意して物をみようとする             | — — | — — | — — |
|                            | 3. よろこんで動植物を世話する            | — — | — — | — — |
|                            | 4.                          | — — | — — | — — |
|                            | 5.                          | — — | — — | — — |

|                |                             |  |  |  |
|----------------|-----------------------------|--|--|--|
| 言              | 1. 喜んで自分の経験を話す              |  |  |  |
|                | 2. 聞いた話をひとに話せる              |  |  |  |
|                | 3. 絵を見てひとに話せる               |  |  |  |
|                | 4. 喜んで話を聞く                  |  |  |  |
|                | 5. ひとといつしよに話を聞く             |  |  |  |
|                | 6. 語いが増している                 |  |  |  |
| 語              | 7.                          |  |  |  |
|                | 8.                          |  |  |  |
| 音楽・リズム         | 1. 気持のままに喜んで歌う              |  |  |  |
|                | 2. 気持の儘に喜んで楽器をひく            |  |  |  |
|                | 3. 気持のままに喜んで動きのリズムを表現する     |  |  |  |
|                | 4. 喜んで音楽を聞く                 |  |  |  |
|                | 5.                          |  |  |  |
|                | 6.                          |  |  |  |
| 映画・製作          | 1. 喜んで絵をかいたり物を作つたりする        |  |  |  |
|                | 2. 絵をかいたり物を作つたりして自分の気持を表現する |  |  |  |
|                | 3. 形や色や模様に関心をもつ             |  |  |  |
|                | 4. 身近にある造形品に関心をもつ           |  |  |  |
|                | 5.                          |  |  |  |
|                | 6.                          |  |  |  |
| 年度             |                             |  |  |  |
| 全導の経過として<br>の指 |                             |  |  |  |

## 幼児指導要録の記録のしかた

### (1) 幼稚園名その他と在籍の記録について

- A, 幼稚園名, 年度, 学年初めの幼児の年齢, 園長氏名印, 担任職氏名印, 氏名, 生年月日, 現住所, 本籍地, 保護者名, 本人との関係欄は, それぞれ正確に記入すること。
- B, 性別欄は, 該当事項を○で囲むこと。
- C, 電話または連絡方法欄には, 電話番号(呼出の場合はその旨) 電話がない場合は, これに代る方法で家庭に連絡することができる, 最もよい方法を記入すること。
- D, 入園年月日欄には, 幼児がその幼稚園に入園した年月日を記入すること。再入園または転園してきた幼児の場合は, その旨をかつこ内に註記すること。
- E, 修了または転退園欄には, 幼児が修了または転退園した年月日と, 修了, 転退園の別を記入すること。

### (2) 生育と家庭の記録について

- A, 生育地欄には, 幼児の出生した地と生育した地とを, できうるかぎり詳細に記入すること。
- B, 主として養育した人欄には, 幼児をおもに養育してきた人の, 幼児との続柄を記入すること。幼児が他の家庭で養育された場合は, その旨をかつこ内に記入すること。
- C, 発育の状況欄には, 幼児の指導に関係ある発育の一般的な状態を記入すること。(病気については, 次の欄に記入すること。)
- D, 病気の記録欄には, 幼児がかかつたおもな病気の名称, その期間, 経過の大要, 心身に及ぼした影響等を記入すること。
- E, 入園前に入所した保育所その他施設欄には, 幼児が幼稚園に入園する以前に, 入所(児童福祉施設)したところのある施設名とその期間を記入すること。
- F, 家族の記録欄には, それぞれ正確に記入し, 同居している者は全部記入すること。

### (3) 出欠の記録について

- A, 年度欄には, 昭和○○年とその年の年度を記入すること。
- B, 欠席の理由欄には, 欠席のおもな理由とその理由に伴つて欠席した期間等を記入すること。

### (4) 標準検査の記録について

- A, 検査の名称欄には, 知能検査, 性格検査等の検査の種類と, その具体的な名称を記入すること。
- B, 実施の年月日, 年齢, 知能指数または偏差値, 実施者氏名欄は, それぞれ正確に記入すること。

### (5) 評価について

- A, 評価の観点は, 幼児がそのよりよい成長発達を遂げるために, 必要でありかつ望ましい状態や態度や能力を示した機会の多寡にこれを置いた。
- B, 「たいてい」は, 望ましい状態なり態度なり能力なりを, つねに, または比較的

く示した場合、該当箇所に○印をつける。

- C、「ときどき」は、望ましい状態なり態度なり能力なりを、ときどき示した場合、該当箇所に○印をつける。
- D、「まれに」は、望ましい状態なり態度なり能力なりを、まるつきり示さない場合または全然示さない場合、該当箇所に○印をつける。
- E、望ましい状態なり態度なり能力なりの内容についてはその幼児の年齢に応じて発達に応じて考慮する必要がある。

#### (6) 身体の状態

- A、「皮膚が清潔で色つやがよい」は、皮膚が、きれいで、さえていて光沢があるかどうかについてみる。
- B、「元気がよい」は、活気があるかどうかすぐにつかれないかどうかについてみる。
- C、「姿勢がよい」は、立つているときも、すわっているときも、歩いているときも、頭を下げていたり身体が曲つていたりしないで、正しい姿勢を保っていることができるかどうかについてみる。
- D、「運動や動作の調節ができる」は、運動や動作の場合、よく運動機能の調節がとれていて、安定感があるかどうかについてみる。

#### (7) 健康の習慣

- A、「おちついて食べる」は、食事のとき、ゆつくりと静かに、よくかんでこぼさないで食べられるかどうかについてみる。
- B、「手をあらう」は、しごとや遊びのあとや食事の前によごれた手をあらうかどうかについてみる。
- C、「はなをきれいにしている」は、はなをたらしさないか、またはたらししてもすぐきれいかめるかどうかについてみる。
- D、「手や物を口に入れない」は、手や指や入れる必要のないものを口に入れるかどうかについてみる。
- E、「そとで遊ぶ」は、そとで遊ばなければならないとき、好んでそとで遊ぶかどうかについてみる。
- F、「よく休息する」は、休息しなければならないとき、よく休息することができるかどうかについてみる。

#### (8) しごとの習慣

- A、「しごとのしかたをよくまもる」は、しごとの順序方法について、指導したことをよくわきまえて、そのとおりやれるかどうかについてみる。
- B、「しごとをやりとげる」は、自分ですべきしごとを、おわりまでやりとげられるかどうかについてみる。
- C、「自分からすすんでやる」は、ひとからさしずをうけないでも自分からすすんでやることができるかどうかについてみる。
- D、「材料や道具をわけあつてつかう」は、しごとをするときそれに使われる材料や道具を独占しないで、互に分けあつて使えるかどうかについてみる。

E, 「材料や道具をたいせつにする」は、しごとに使う材料や道具を、よく注意してこわさないように、またむだづかいをしないで、ていねいに使えるかどうかについてみる。

F, 「くふうしてやる」は、しごとをするとき、創造力を發揮してやるかどうかについてみる。

## (8) 社会生活

A, 「ひとと仲よく遊ぶ」は、友達同志仲よく遊べるかについてみる。

B, 「ひとのものをだいじにする」は、ひとの持物や権利を尊重することができるかどうかについてみる。

C, 「順番をよく守る」は、きめられた順番を守つて、いつも自分だけ先になろうとしないかどうかについてみる。

D, 「ひとのめいわくにならないように静かにする」は、ひとに迷惑をかけないように必要に応じて静かにすることができるかどうかについてみる。

E, 「つつしみのある動作や態度がとれる」は、ひとに対して礼をうしなわないような動作や態度がとれるかどうかについてみる。

F, 「親切である」は、すべてのひとに対して、思いやりがあるかどうかについてみる。

G, 「遊びやしごとが公正である」は、遊びやしごとするとき、ひとをごまかしたりしないで、公明正大にやることができるかどうかについてみる。

H, 「責任をもつて分担したしごとをする」は、グループでするしごとのうち、自分の分担したしごとを責任をもつてやるかどうかについてみる。

I, 「ひとに助力する」は、ひとから求められたとき、あるいはひとの困つているのを見たときすすんで手助けすることができるかどうかについてみる。

## (10) 自然

A, 「身近かな事物について知りたがる」は、身近かな自然物や自然現象等に好奇心をもち、それらについて知りたがるかどうかについてみる。

B, 「注意して物を見ようとする」は、気をつけて物を観察しようとするかどうかについてみる。

C, 「よろこんで動植物を世話する」は、動植物の世話をすることに興味をもっているかどうかについてみる。

## (11) 言語

A, 「喜んで自分の経験を話す」は、自分で経験したことをよろこんでひとに話すかどうかについてみる。

B, 「聞いた話をひとに話せる」は、ひとから聞いた話を、再びひとにわかるように話すかどうかについてみる。

C, 「絵をみてひとに話せる」は、絵の意味を理解して、それを簡単な話にして、ひとに話せるかどうかについてみる。

D, 「喜んで話を聞く」は、ひとが話している話を、興味をもつて聞くかどうかについてみる。



- E, 「ひとといつしよに話を聞く」は、仲間に入つて、ひとの話を聞くことができるかどうかについてみる。
- F, 「語いが増している」は、聞く語いや話す語いが、増してきているかどうかについてみる。

### (12) 音楽・リズム

- A, 「気持のままに喜んで歌う」は、自分の気持や考えを、思うままに喜んで歌であらわせるかどうかについてみる。
- B, 「気持のままに喜んで楽器をひく」は、自分の気持や考えを、思うままに喜んで器楽であらわせるかどうかについてみる。
- C, 「気持のままに喜んで動きのリズムであらわす」は、自分の気持や考えを、思うままに喜んで、動きのリズムであらわせるかどうかについてみる。
- D, 「喜んで音楽を聞く」は、音楽を聞くことに、興味を持つかどうかについてみる。

### (13) 絵画・製作

- A, 「喜んで絵をかいたり物をつくつたりする」は、絵をかいたり、紙や粘土で物をつくつたりすることに興味を持つかどうかについてみる。
- B, 「絵をかいたり物をつくつたりして自分の気持を表現する」は、自分の気持や考えを絵や物であらわせるかどうかについてみる。
- C, 「形や色や模様に関心をもつ」は、形や色や模様に対して、関心をもつかどうかについてみる。
- D, 「身近な造形品に関心をもつ」は、身のまわりにあるいろいろな品物の好ききらい、よいかわるいかということに関心をもつかどうかについてみる。

### (14) 全体としての指導の経過

幼児を全体としてみた場合の、幼児の進歩の状態を指導の経過について記入する。

#### 御 知 ら せ

本年は幼稚園教育の始祖、フリードリヒ・ウイールヘルム、アウグスト・フレーベルの死後百年に当りますので、(一八五二年六月二十一日マリエンタール幼稚園内にて永眠)各所でフレイベル祭が挙行される予定です。尙協会におきましても、全世界の保育教育の諸雑誌と共に特に本誌六月号(第五〇巻第六号)を

#### フ レーベル特集號

といたしまして、各方面専門御研究の權威の方々に御執筆ねがい、この行事にふさわしい充実した内容のものを御手許にお届けする計画で御座います、御期待下さいませ。

日本幼稚園協會

# 會から

○四月新入園のお子さん達も、もう幼稚園に親しんで遊んでいられるでしょう。庭の運動具は、自分の家にならぬ子供が多く、ジャングルジムなんか、そのかしらで、初めての子も沢山いるでしょう。あの運動具は、見ていると危なそうで、一番危険の起らない点はよく考えてあると思えます。よく考えたというよりは、あれは、一名猿のぼりといわれるように、猿の木のぼり、枝わたり、を学んだものかも知れません。先生方も、もつと動物の自然生活を見物せられたら、新しい運動具の発見もふえるでしょう。ところで、ジャングルジムの安全なのは子どもの行動が本能に導かれる仕組みになっているからだと説明せられましょう。登りたいのも本能、落ちないようにするのも本能、それが、よく考えられ、否、猿の生活から学ばれてあるという訳です。ほんとうの自然ほど安全なものはない。なまじ落ちまいと意識で注意したりすると、心が頭に上つて(?)足がふるえてすべる。傍で、本能の弱くなつた(！)先生が、危いく、気をつけてくなんか教えると、却つていけませんね。運動具の秘訣も、その遊ばせ方のコツもそこ

にあるようです。一つ、猿をジャングルジムで遊ばせてみたらどうでしょう。こんなもの山にはいくらでもあるというでしょう。よい運動具にはそういうものが沢山ありそうです。五月の爽かな庭をのぞいて、運動具論になりましたが、これは保育全体に通じることのようです。

○さて本号は鈴木氏のカリキネラム論が、内容的に六ヶ月に及ぶものであるため全文一括して掲載いたしました関係上、毎月連載の平井氏の講話、松原氏の童話、畑合氏の記録を、已むなく割愛せねばならぬことになりました。この点、両氏並びに読者各位に御諒解を御願いしたいと存じます。

## 幼児の教育」編集

編集主任

協力委員

倉橋惣三

牛島義友

及川ふみ

齋藤文雄

多田鐵雄

波多野完治

山下俊郎

(五十音順)  
西山浪太郎

編集委員

日本幼稚園協會

## 幼児の教育 第五卷 第五号

定価 金參拾円

昭和二十六年五月十五日印刷  
昭和二十六年五月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋惣三  
発行者

東京都板橋区志村町五番地

印刷所 凸版印刷株式会社

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附属幼稚園内

發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田区神田神保町二ノ四

發賣所 株式会社 フレーベル館

電話九段(33)三六七・三〇三番

振替 東京一九六四〇番

○本誌御購読について注文申込その他は凡べて発売所フレイベル館宛に願います

優れた内容—美しい印刷

# トツパンのえほん

私は何でしよう

動物、身近な道具などからヒントを選び、家族中が楽しめる新しい絵本

おみせやさん

花屋、小鳥屋、ばんや、時計屋、魚屋など子供に親しみ深い商店の絵本

たのしいがつこう

新入學生に學校の楽しさを語る絵本

おもちゃのくに

色々は玩具で楽しい玩具の國を描く本

うたとゆうぎ

お茶の水大學の戸倉はる先生指導の振付と樂譜 美しい繪の本

繪本 あいいうえお

武井武雄先生のあいいうえおの文學と繪本

童謡繪本

世界の誰でもが知り親しんでいる童謡歌の決定版

(A 4) 16頁 價 65圓

(A 4) 16頁 價 65圓

(A 4) 16頁 價 65圓

(A 4) 24頁 價 80圓

(A 4) 50頁 價 55圓  
(B 5) 24頁 價 70圓

(A 5) 5頁 價 7圓  
(B 4) 4頁 價 0圓

小川未明 監修  
坪田謙治 監修  
童話三百六十五日

子供が喜ぶ童話を一日一話ずつ春・夏・秋  
冬に分けて編んだもの。

發行所 東京日本橋茅場町 トツパン

(A 5) 5頁 價 350圓  
(A 387) 價

お茶の水女子大 戸倉ハル・東京高師 小林つや 江共著  
保育資料 うたとあそび  
四六倍判 一八四頁  
定価 三二〇円  
書留送料 六五円

著者多年の経験と蘊蓄を傾倒し、幼稚園及小学校低学年用の教材の粹八十曲をあつめ、これを春・夏・秋・冬の四に分けて詳説したもので絶対の保育資料として各地の講習会等に於て讚辭を頂いています。

表紙七色刷・扉等三色刷 美麗製本  
最寄の書店又は本社に御注文下さい。

東京教育大学教官 中島 海著

遊戯と リレーレース  
B6判 二四二頁  
定価 三二〇円  
送料 三五円

●多年の蘊蓄を傾倒してものした、遊戯に関する理論及び實際指導の権威書。運動会参考資料として好適。

東京教育大学教官 中島 海著

鬼遊びとかけっこ  
B6判 三三七頁  
定価 二五〇円  
送料 三五円

●遊戯研究及実地指導に不可欠の好著。あらゆる種類の鬼遊びとかけっこを網羅蒐集したもの。運動会用として好著。

東京教育大学体育部教官編

體育大辭典  
A5判 一〇〇四頁  
定価 一三三〇円  
一万二千項目収録

(第二版出来發賣中)

東京都文京区大塚仲町二

發行所 株式会社 不味堂書店

振替東京六八七三九番

観  
察

# キンダーブック

繪  
本

## KINDER-BOOK

—第 6 編 2 集—  
(大きくなれ・強くなれ)

—第 6 編 3 集—  
(木の話)



A 4 判・16 頁・月一回発行  
定価 40 円—送料 6 円

『強くなれ  
大きくなれ』

お子様達の生長の量  
と質とを、大きくなれ  
強くなれと云う祝福の  
祈りのことばで、五月  
の萌えあがる爽やかな  
自然と生活のなかに捉  
え、すくすくと伸びそ  
だつてゆかれるお子様  
達の姿を表現し、子  
供の目のよるこびに心  
からたのしんで頂ける  
ように編集いたしました。

### 『木の話』

人間の生活と木とは  
密接不離なつながり  
があります。私たちは、  
日々木の多大な恩恵に  
浴しております。  
キンダーブックの六  
月号は、サイエントッ  
クな部面に立ち、お子  
さまの世界にそれら  
を生産・勤労・効用等  
もとりまぜてお送り  
いたします。

発行所 東京都千代田区神田 株式会社 フレーベル館 振替口座東京 一九六四〇番  
神保町二丁目四番地 株会